

学校コード F140310110918

注3

設置年度 平成 31年度

計画の区分： 大学の設置

注1

認可

注2

福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人高木学園

令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 主任 ミスノ マサミチ 水野 真修

電話番号 092-832-1200

（夜間） 092-832-1200

e-mail fiuhw-secchi@takagigakuen.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

医療学部

<理学療法学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	21
4. 既設大学等の状況	22
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高木学園

(2) 大学名

福岡国際医療福祉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒814-0001
福岡県福岡市早良区百道浜三丁目6番40号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成11年2月)		
学長	(イマイズミ ツトム) 今泉 勉 (平成31年4月)	(ハラ ヒデオ) 原 英夫 (令和4年4月)	今泉前学長の任期満了による学長交替(4)
学部長			
学科長等	(ヒイラギ ユキノブ) 柊 幸伸 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医療学部 作業療法学科 学士（作業療法学）	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）	4 年	40 人	- 人	160 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	1.11 倍	-	
	()	()	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]			
志願者数	()	()	184	-	260	-	276	-	259	-	()	()			
	[]	[]	[2]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[2]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
受験者数	()	()	181	-	259	-	274	-	258	-	()	()			
	[]	[]	[2]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[2]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
合格者数	()	()	68	-	76	-	76	-	83	-	()	()			
	[]	[]	[1]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[1]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
B 入学者数	()	()	49	-	44	-	43	-	42	-	()	()			
	[]	[]	[0]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[0]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
入学定員超過率 B/A			1.22		1.10		1.07		1.05						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次			49 [-] (-)	- [-] (-)	44 [-] (-)	- [-] (-)	43 [-] (-)	- [-] (-)	42 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次					47 [-] (-)	- [-] (-)	43 [-] (-)	- [-] (-)	44 [-] (1)	- [-] (-)	
3年次							47 [-] (-)	- [-] (-)	45 [-] (3)	- [-] (-)	
4年次									44 [-] (-)	- [-] (-)	
計			49 [-] (-)		91 [-] (-)		133 [-] (-)		175 [-] (4)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入してください。**該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。**
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	49 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	2 人	人	就学意欲の低下(2名)
令和2年度	91 人	1 人	平成30年度	人	人	該当なし
			令和元年度	0 人	人	該当なし
			令和2年度	1 人	人	他の教育機関への入学・転学(1名)
令和3年度	133 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	人	該当なし
			令和2年度	0 人	人	該当なし
			令和3年度	0 人	人	該当なし
令和4年度	175 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	人	該当なし
			令和2年度	0 人	人	該当なし
			令和3年度	0 人	人	該当なし
			令和4年度	0 人	人	該当なし
合計		3 人		3 人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{49} = \boxed{4.08} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{91} = \boxed{1.09} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{133} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{175} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療学部 理学療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学	1.2.3.4前	1								兼1
	倫理学	1.2.3.4後	1								兼1
	文学	1.2.3.4前	1								兼1
	教育学	1.2.3.4後	2								兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.4後	2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1								兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前・後	2			6	1	5	1	2	兼25
	アジア比較文化論	1.2.3.4前	1								兼1
	法学	1.2.3.4前	1								兼1
	経済学	1.2.3.4後	1								兼1
	社会学	1.2.3.4前	1								兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.4後	2								兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1.2.3.4後	1								兼1
	生物学	1.2.3.4後	2								兼1
	物理学	1.2.3.4前	2								兼1
	統計学	1後	2					1			
	医療とICT	1前	2					1			
	生命倫理	1後	2								兼1
	人間工学	1.2.3.4前	2								兼1
健康科学理論	1.2.3.4前	1				1				兼1	
健康スポーツ実践	1.2.3.4後	1								兼1	
大学入門講座	1前	1								兼2	
医学英語Ⅰ	1前	1								兼1	
医学英語Ⅱ	1後	1								兼1	
英語(基礎)	1.2.3.4前	1								兼1	
英語(応用)	1.2.3.4後	1								兼1	
英会話	1.2.3.4後	1								兼1	
韓国語*	1後	2								兼1	
中国語*	1後	2								兼1	
小計(31科目)	-	16	29	-	6	1	5	1	2	兼39	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1								兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1								兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1								兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1								兼1
	小計(4科目)	-	4	-	0	0	0	0	0	兼1	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学	1.2.3.4前	1								兼1
	倫理学	1.2.3.4後	1								兼1
	文学	1.2.3.4前	1								兼1
	教育学	1.2.3.4後	2								兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.4後	2								兼1
	教育評価学	1.2.3.4後	2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1								兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前・後	2			6	1	5	1	2	兼25
	アジア比較文化論	1.2.3.4前	1								兼1
	法学	1.2.3.4前	1								兼1
	経済学	1.2.3.4後	1								兼1
	社会学	1.2.3.4前	1								兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.4後	2								兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1.2.3.4後	1								兼1
	生物学	1.2.3.4後	2								兼1
	物理学	1.2.3.4前	2								兼1
	統計学	1後	2						1		
	医療とICT	1前	2						1		
	生命倫理	1後	2								兼1
人間工学	1.2.3.4前	2								兼1	
健康科学理論	1.2.3.4前	1								兼1	
健康スポーツ実践	1.2.3.4後	1								兼1	
大学入門講座	1前	1						1		兼2	
医学英語Ⅰ	1前	1								兼2	
医学英語Ⅱ	1後	1								兼2	
英語(基礎)	1.2.3.4前	1								兼2	
英語(応用)	1.2.3.4後	1								兼2	
英会話	1.2.3.4後	1								兼2	
韓国語*	1通	2								兼1	
中国語*	1通	2								兼1	
小計(32科目)	-	16	31	-	6	1	5	1	2	兼41	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1								兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1								兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1								兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1								兼1
	小計(4科目)	-	4	-	0	0	0	0	0	兼1	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖学実習	1前	1			1				2		
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1	
	生理学実習	1後	1					1		2	兼2	
	病理学	1後	1			1						
	臨床医学概論	1前	2			1						
	公衆衛生学	1,2,3後		2							兼1	
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1	
	内科学Ⅰ	2前	1			1						
	内科学Ⅱ	2後	1			1						
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1	
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1	
	整形外科Ⅰ	2前	1								兼1	
	整形外科Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1	
	精神医学Ⅱ	2,3後		1							兼1	
	小児科学	2前	1								兼1	
	老年学	2後	1								兼1	
	人間発達学	1前	2								兼1	
	臨床心理学概論	2前	2								兼1	
	救急医学	2,3前		1							兼1	
	薬理学	1,2,3後		1							兼1	
	栄養学	1,2,3後		1							兼1	
	カウンセリング論	1,2,3前		1							兼1	
	リスクマネジメント論	3前		2		1						
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1							兼1	
	医用画像診断学	3後	1			1						
	運動学Ⅰ	1前	1					1				
	運動学Ⅱ	1後	1					1				
	運動生理学	2前	1					1				
	運動学実習	2前	1				1			2		
リハビリテーション概論	1前	2			1							
保健医療福祉制度論	1,2,3前		2							兼1		
関連職種連携論	2前	2			1					兼2		
関連職種連携ワーク	3前	1					4		2	兼8		
小計(37科目)	-	33	12	-	7	1	4	0	2	兼21		

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖学実習	1通	1			1				2		
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1	
	生理学実習	1後	1					1		2	兼2	
	病理学	1後	1			1						
	臨床医学概論	1前	2			1						
	公衆衛生学	1,2,3後		2							兼1	
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1	
	内科学Ⅰ	2前	1			1						
	内科学Ⅱ	2後	1			1						
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1	
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1	
	整形外科Ⅰ	2後	1								兼1	
	整形外科Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1	
	精神医学Ⅱ	2,3後		1							兼1	
	小児科学	2前	1								兼1	
	老年学	2後	1								兼1	
	人間発達学	1前	2								兼1	
	臨床心理学概論	2前	2								兼1	
	救急医学	2前	1								兼1	
	基礎薬理学	1後	1								兼1	
	栄養学	1,2,3後		1							兼1	
	カウンセリング論	1,2,3前		1							兼1	
	リスクマネジメント論	3前		2		1						
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1							兼1	
	医用画像診断学	3後	1			1						
	運動学Ⅰ	1前	1					1				
	運動学Ⅱ	1後	1					1				
	運動生理学	2前	1					1				
	運動学実習	2前	1				1			2		
リハビリテーション概論	1前	2			1							
保健医療福祉制度論	1,2,3後		2							兼1		
関連職種連携論	2後	2			1					兼2		
関連職種連携ワーク	3前	1					4		2	兼8		
小計(37科目)	-	35	10	-	7	1	4	0	2	兼21		

【認可時又は届出時】

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目(専門科目)	理学療法概論	1前	1			1						
	運動解剖学	1後	1						1	2		
	病態運動学	3後	1						1			
	物理療法 I	2前	1					1				
	物理療法 II	2後	1					1				
	PTスキル I 演習(キャリアデザイン)	1後	1					1		2		
	PTスキル II 演習(検査・測定)	2後	1					1		2		
	PTスキル III 演習(障害理解)	3前	1					1		2		
	PTスキル IV 演習(専門知識の確認)	3後	1					1		2		
	理学療法評価学	1後	1					1				
	理学療法診断学 I (基礎)	2前	2					1				
	理学療法診断学 II (神経診断学)	2前	1					1				
	理学療法診断学 III (疾患別評価)	2後	1						1			
	理学療法診断学 IV (電気診断学)	2,3後		1				1				
	バイオメカニクス	1前	1					1				
	動作分析学	2,3後		1			1					
	運動療法学総論	2前	2					1				
	理学療法治療学総論	3前	1						1			
	運動系理学療法学 I	3前	2						1			
	運動系理学療法学 II	3後	2					1				
	神経系理学療法学 I	3前	2				1					
	神経系理学療法学 II	3後	2					1				
	高次脳機能障害学	3後		1			1					
	代謝系理学療法学	3後	1					1				
	循環理学療法学	3後	1					1				
	呼吸理学療法学	3前	2					1				
	癌のリハビリテーション	2,3後		1			2					
	装具学	2前	1				1				兼1	
	義肢学	2後	1				1					
	生活環境学	2前	1					1				
	生活技術学	2後	2					1				
	地域理学療法学	2前	1					1				
福祉住環境論	3前		1				1					
小児理学療法学	2後	2								兼1		
理学療法技術学	3後		1					1				
先端リハビリテーション科学	3後		1			1						
クリニカルリーズニング	3後		1					1				
産科理学療法学	3前		1							兼1		
障害者スポーツ概論	2,3前		1				1					
理学療法特論 I (基礎)	4後		1					1				
理学療法特論 II (応用)	4後		1					1				
リハビリテーション管理論	3後		1			1				兼1		
基礎実習 I	1前		1		1	1	4	1	2			
基礎実習 II	1後		1		1	1	4	1	2			
検査測定実習	3前		2		1	1	4	1	2			
評価実習	3後		3		1	1	4	1	2			
臨床実習 I	4前		7		1	1	4	1	2			
臨床実習 II	4前		7		1	1	4	1	2			
地域理学療法学実習	4前		1		1	1	4	1	2			
卒業研究 I (研究計画の立案)	3後		2		1	1	4	1	2			
卒業研究 II (研究の実践)	4後		2		1	1	4	1	2			
小計(51科目)	-		67	10	-	3	1	4	1	2	兼2	
合計(119科目)	-		116	51		8	1	5	1	2	兼45	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目(専門科目)	理学療法概論	1前	1			1					
	運動解剖学	1後	1						1	2	
	病態運動学	3後	1						1		
	物理療法 I	2前	1					1			
	物理療法 II	2後	1					1			
	PTスキル I 演習(キャリアデザイン)	1後	1					1		2	
	PTスキル II 演習(検査・測定)	2後	1					1		2	
	PTスキル III 演習(障害理解)	3前	1					1		2	
	PTスキル IV 演習(専門知識の確認)	3後	1					1		2	
	理学療法評価学	1後	1					1			
	理学療法診断学 I (基礎)	2前	2					1			
	理学療法診断学 II (神経診断学)	2前	1					1			
	理学療法診断学 III (疾患別評価)	2後	1						1		
	理学療法診断学 IV (電気診断学)	2,3後		1				1			
	バイオメカニクス	1前	1					1			
	動作分析学	2,3後		1			1				
	運動療法学総論	2前	2					1			
	理学療法治療学総論	3前	1						1		
	運動系理学療法学 I	3前	2						1		
	運動系理学療法学 II	3後	2					1			
	神経系理学療法学 I	3前	2				1				
	神経系理学療法学 II	3後	2					1			
	高次脳機能障害学	3後		1			1				
	代謝系理学療法学	3後	1					1			
	循環理学療法学	3後	1					1			
	呼吸理学療法学	3前	2					1			
	癌のリハビリテーション	2,3後		1			2				
	装具学	2前	1				1				兼1
	義肢学	2後	1				1				
	生活環境学	2前	1					1			
	生活技術学	2後	2					1			
	地域理学療法学	2前	1					1			
福祉住環境論	3前		1				1				
小児理学療法学	2後	2								兼1	
理学療法技術学	3後		1					1			
先端リハビリテーション科学	3後		1			1					
クリニカルリーズニング	3後		1					1			
産科理学療法学	3前		1							兼1	
障害者スポーツ概論	2,3前		1				1				
理学療法特論 I (基礎)	4後		1					1			
理学療法特論 II (応用)	4後		1					1			
リハビリテーション管理論	3後		1			1				兼1	
基礎実習 I	1前		1		1	1	4	1	2		
基礎実習 II	1後		1		1	1	4	1	2		
検査測定実習	3前		2		1	1	4	1	2		
評価実習	3後		3		1	1	4	1	2		
臨床実習 I	4前		7		1	1	4	1	2		
臨床実習 II	4前		7		1	1	4	1	2		
地域理学療法学実習	4前		1		1	1	4	1	2		
卒業研究 I (研究計画の立案)	3後		2		1	1	4	1	2		
卒業研究 II (研究の実践)	4後		2		1	1	4	1	2		
小計(51科目)	-		67	10	-	3	1	4	1	2	兼2
合計(120科目)	-		118	51		8	1	5	1	2	兼47

合計(123科目)(留学生)	-	120	51		8	1	5	1	2	兼46
卒業要件及び履修方法										
卒業要件124単位										
総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位, 社会系:5単位, 自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。専門教育科目:必修100単位(専門基礎科目:33単位、専門科目:67単位)。これ以外に専門教育科目全体から3単位以上選択。(履修課目の登録の上限 49単位(年間))										

合計(124科目)(留学生)	-	122	51		8	1	5	1	2	兼48
卒業要件及び履修方法										
卒業要件124単位										
総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位, 社会系:5単位, 自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。専門教育科目:必修102単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:67単位)。これ以外に専門教育科目全体から1単位以上選択。(履修課目の登録の上限 49単位(年間))										

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学(未開講)	1,2,3,4後	1								兼1
	倫理学	1,2,3,4後	1								兼1
	文学(未開講)	1,2,3,4後	1								兼1
	教育学	1,2,3,4後	2								兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4後	2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1								兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前・後	2			6	1	5	1	2	兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4前	1								兼1
	法学	1,2,3,4前	1								兼1
	経済学	1,2,3,4後	1								兼1
	社会学	1,2,3,4前	1								兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後	2								兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1,2,3,4後	1								兼1
	生物学	1,2,3,4後	2								兼1
	物理学	1,2,3,4前	2								兼1
	統計学	1後	2					1			
	医療とICT	1前	2					1			
	生命倫理	1後	2								兼1
	人間工学	1,2,3,4前	2								兼1
	健康科学理論	1,2,3,4前	1								兼1
	健康スポーツ実践	1,2,3,4後	1								兼1
大学入門講座	1前	1			1					兼2	
医学英語Ⅰ	1前	1								兼1	
医学英語Ⅱ	1後	1								兼2	
英語(基礎)	1,2,3,4後	1								兼2	
英語(応用)	1,2,3,4後	1								兼2	
英会話	1,2,3,4後	1								兼2	
韓国語*	1後	2								兼1	
中国語*	1後	2								兼1	
小計(31科目)	-	16	29	-	6	1	5	1	2	兼40	
(留学生用)	日本語Ⅰ(未開講)	1・2・3・4前	1								兼1
	日本語Ⅱ(未開講)	1・2・3・4後	1								兼1
	日本語Ⅲ(未開講)	1・2・3・4前	1								兼1
	日本語Ⅳ(未開講)	1・2・3・4後	1								兼1
	小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0	兼1

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学	1,2,3,4前	1								兼1
	倫理学	1,2,3,4後	1								兼1
	文学	1,2,3,4後	1								兼1
	教育学	1,2,3,4後	2								兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4後	2								兼1
	教育評価学	1,2,3,4後	2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1								兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前・後	2			6	1	5	1	2	兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4前	1								兼1
	法学	1,2,3,4前	1								兼1
	経済学	1,2,3,4後	1								兼1
	社会学	1,2,3,4前	1								兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後	2								兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1,2,3,4後	1								兼1
	生物学	1,2,3,4後	2								兼1
	物理学	1,2,3,4前	2								兼1
	統計学	1後	2						1		
	医療とICT	1前	2						1		
	生命倫理	1後	2								兼1
	人間工学	1,2,3,4前	2								兼1
	健康科学理論	1,2,3,4前	1								兼1
健康スポーツ実践	1,2,3,4後	1								兼1	
大学入門講座	1前	1			1					兼2	
医学英語Ⅰ	1前	1								兼2	
医学英語Ⅱ	1後	1								兼2	
英語(基礎)	1,2,3,4後	1								兼2	
英語(応用)	1,2,3,4後	1								兼2	
英会話	1,2,3,4後	1								兼2	
韓国語*	1後	2								兼1	
中国語*	1後	2								兼1	
小計(32科目)	-	16	31	-	6	1	5	1	2	兼41	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1								兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1								兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1								兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1								兼1
	小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0	兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖学実習	1通	1			1				2		
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1	
	生理学実習	1後	1					1		2	兼2	
	病理学	1後	1			1						
	臨床医学概論	1前	2			1						
	公衆衛生学	1,2,3後		2							兼1	
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1	
	内科学Ⅰ	2前	1			1						
	内科学Ⅱ	2後	1			1						
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1	
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1	
	整形外科Ⅰ	2前	1								兼1	
	整形外科Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1	
	精神医学Ⅱ	2,3後		1							兼1	
	小児科学	2前	1								兼1	
	老年学	2後	1								兼1	
	人間発達学	1前	2								兼1	
	臨床心理学概論	2前	2								兼1	
	救急医学	2,3前		1							兼1	
	薬理学	1,2,3後		1							兼1	
	栄養学	1,2,3後		1							兼1	
	カウンセリング論	1,2,3前		1							兼1	
	リスクマネジメント論	3前		2		1						
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1							兼1	
	医用画像診断学	3後	1			1						
	運動学Ⅰ	1前	1					1				
	運動学Ⅱ	1後	1					1				
	運動生理学	2前	1					1				
	運動学実習	2前	1			1				2		
リハビリテーション概論	1前	2			1							
保健医療福祉制度論	1,2,3前		2							兼1		
関連職種連携論	2前	2			1					兼2		
関連職種連携ワーク	3前	1					4		2	兼8		
小計(37科目)	-	33	12	-	7	1	4	0	2	兼21		

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖学実習	1通	1			1				2		
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1	
	生理学実習	1後	1					1		2	兼2	
	病理学	1後	1					1				
	臨床医学概論	1前	2			1						
	公衆衛生学	1,2,3後		2							兼1	
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1	
	内科学Ⅰ	2前	1			1						
	内科学Ⅱ	2後	1			1						
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1	
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1	
	整形外科Ⅰ	2後	1								兼1	
	整形外科Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1	
	精神医学Ⅱ	2,3後		1							兼1	
	小児科学	2前	1								兼1	
	老年学	2後	1								兼1	
	人間発達学	1前	2								兼1	
	臨床心理学概論	2前	2								兼1	
	救急医学	2,3前		1							兼1	
	薬理学	1,2,3後		1							兼1	
	栄養学	1,2,3後		1							兼1	
	カウンセリング論	1,2,3前		1							兼1	
	リスクマネジメント論	3前		2		1						
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1							兼1	
	医用画像診断学	3後	1			1						
	運動学Ⅰ	1前	1					1				
	運動学Ⅱ	1後	1					1				
	運動生理学	2前	1					1				
	運動学実習	2前	1			1				2		
リハビリテーション概論	1前	2			1							
保健医療福祉制度論	1,2,3前		2							兼1		
関連職種連携論	2前	2			1					兼2		
関連職種連携ワーク	3前	1					4		2	兼8		
小計(37科目)	-	35	10	-	7	1	4	0	2	兼21		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目(専門科目)	理学療法概論	1前				1							
	運動解剖学	1後	1						1	2			
	病態運動学	3後	1							1			
	物理療法Ⅰ	2前	1					1					
	物理療法Ⅱ	2後	1					1					
	PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	1後	1					1			2		
	PTスキルⅡ演習(検査・測定)	2後	1					1			2		
	PTスキルⅢ演習(障害理解)	3前	1					1			2		
	PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)	3後	1					1			2		
	理学療法評価学	1後	1						1				
	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	2前	2						1				
	理学療法診断学Ⅱ(神経診断学)	2前	1						1				
	理学療法診断学Ⅲ(疾患別評価)	2後	1							1			
	理学療法診断学Ⅳ(電気診断学)	2,3後		1					1				
	バイオメカニクス	1前	1						1				
	動作分析学	2,3後		1			1						
	運動療法学総論	2前	2						1				
	理学療法治療学総論	3前	1							1			
	運動系理学療法学Ⅰ	3前	2							1			
	運動系理学療法学Ⅱ	3後	2						1				
	神経系理学療法学Ⅰ	3前	2				1						
	神経系理学療法学Ⅱ	3後	2						1				
	高次脳機能障害学	3後		1					1				
	代謝系理学療法学	3後	1						1				
	循環理学療法学	3後	1						1				
	呼吸理学療法学	3前	2						1				
	癌のリハビリテーション	2,3後		1				2					
	装具学	2前	1				1						
	義肢学	2後	1				1						
	生活環境学	2前	1						1				
	生活技術学	2後	2						1				
	地域理学療法学	2前	1						1				
	福祉住環境論	3前		1					1				
	小児理学療法学	2後	2									兼1	
	理学療法技術学	3後		1						1			
	先端リハビリテーション科学	3後		1			1						
	クリニカルリハビリテーション	3後		1					1			兼1	
	産科理学療法学	3前		1									
	障害者スポーツ概論	2,3前		1					1				
	理学療法特論Ⅰ(基礎)	4後	1						1				
	理学療法特論Ⅱ(応用)	4後	1						1				
	リハビリテーション管理論	3後	1				1					兼1	
	基礎実習Ⅰ	1前	1				1	1	4	1	2		
	基礎実習Ⅱ	1後	1				1	1	4	1	2		
検査測定実習	3前	2				1	1	4	1	2			
評価実習	3後	3				1	1	4	1	2			
臨床実習Ⅰ	4前	7				1	1	4	1	2			
臨床実習Ⅱ	4前	7				1	1	4	1	2			
地域理学療法学実習	4前	1				1	1	4	1	2			
卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)	3後	2				1	1	4	1	2			
卒業研究Ⅱ(研究の実践)	4後	2				1	1	4	1	2			
小計(51科目)	-	67	10	-	3	8	1	4	1	2	兼2		
合計(119科目)	-	116	51		8	1	5	1	2		兼46		
合計(123科目)(留學生)	-	120	51		8	1	5	1	2		兼47		
卒業要件及び履修方法													
卒業要件124単位 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位,社会系:5単位,自然・情報系:6単位,総合系:1単位,外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留學生は、必修20単位(人間系:2単位,社会系:5単位,自然・情報系:6単位,総合系:1単位,外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修100単位(専門基礎科目:33単位,専門科目:67単位)。これ以外に専門教育科目全体から3単位以上選択。(履修課目の登録の上限 49単位(年間))													

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目(専門科目)	理学療法概論	1前				1							
	運動解剖学	1後	1							1	2		
	病態運動学	3後	1								1		
	物理療法Ⅰ	2前	1						1				
	物理療法Ⅱ	2後	1						1				
	PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	1後	1						1			2	
	PTスキルⅡ演習(検査・測定)	2後	1						1			2	
	PTスキルⅢ演習(障害理解)	3前	1						1			2	
	PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)	3後	1						1			2	
	理学療法評価学	1後	1						1				
	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	2前	2						1				
	理学療法診断学Ⅱ(神経診断学)	2前	1						1				
	理学療法診断学Ⅲ(疾患別評価)	2後	1							1			
	理学療法診断学Ⅳ(電気診断学)	2,3後		1					1				
	バイオメカニクス	1前	1						1				
	動作分析学	2,3後		1					1				
	運動療法学総論	2前	2							1			
	理学療法治療学総論	3前	1							1			
	運動系理学療法学Ⅰ	3前	2							1			
	運動系理学療法学Ⅱ	3後	2						1				
	神経系理学療法学Ⅰ	3前	2						1				
	神経系理学療法学Ⅱ	3後	2							1			
	高次脳機能障害学	3後		1					1				
	代謝系理学療法学	3後	1						1				
	循環理学療法学	3後	1						1				
	呼吸理学療法学	3前	2						1				
	癌のリハビリテーション	2,3後		1				2					
	装具学	2前	1						1				
	義肢学	2後	1						1				
	生活環境学	2前	1							1			
	生活技術学	2後	2							1			
	地域理学療法学	2前	1							1			
	福祉住環境論	3前		1						1			
	小児理学療法学	2後	2										兼1
	理学療法技術学	3後		1							1		
	先端リハビリテーション科学	3後		1			1						
	クリニカルリハビリテーション	3後		1					1			兼1	
	産科理学療法学	3前		1									
	障害者スポーツ概論	2,3前		1					1				
	理学療法特論Ⅰ(基礎)	4後	1						1				
	理学療法特論Ⅱ(応用)	4後	1						1				
	リハビリテーション管理論	3後	1				1					兼1	
	基礎実習Ⅰ	1前	1				1	1	4	1	2		
	基礎実習Ⅱ	1後	1				1	1	4	1	2		
検査測定実習	3前	2				1	1	4	1	2			
評価実習	3後	3				1	1	4	1	2			
臨床実習Ⅰ	4前	7				1	1	4	1	2			
臨床実習Ⅱ	4前	7				1	1	4	1	2			
地域理学療法学実習	4前	1				1	1	4	1	2			
卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)	3後	2				1	1	4	1	2			
卒業研究Ⅱ(研究の実践)	4後	2				1	1	4	1	2			
小計(51科目)	-	67	10	-	3	8	1	4	1	2	兼2		
合計(120科目)	-	118	51		8	1	5	1	2		兼47		
合計(124科目)(留學生)	-	122	51		8	1	5	1	2		兼48		
卒業要件及び履修方法													
卒業要件124単位 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位,社会系:5単位,自然・情報系:6単位,総合系:1単位,外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留學生は、必修20単位(人間系:2単位,社会系:5単位,自然・情報系:6単位,総合系:1単位,外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修102単位(専門基礎科目:35単位,専門科目:67単位)。これ以外に専門教育科目全体から1単位以上選択。(履修課目の登録の上限 49単位(年間))													

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2									兼1
	哲学	1.2.3.4前	1									兼1
	倫理学	1.2.3.4後	1									兼1
	文学	1.2.3.4後	1									兼1
	教育学	1.2.3.4後	2									兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.4前	2									兼1
	教育評価学	1.2.3.4後	2									兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前・後	2			6	1	5	1	2		兼25
	アジア比較文化論	1.2.3.4後	1									兼1
	法学	1.2.3.4前	1									兼1
	経済学	1.2.3.4後	1									兼1
	社会学	1.2.3.4前	1									兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.4後	2									兼1
	社会保障制度論	1前	2									兼1
	ボランティア論	1.2.3.4後	1									兼1
	生物学	1.2.3.4後	2									兼1
	物理学	1.2.3.4前	2									兼1
	統計学	1後	2						1			
	医療とICT	1前	2						1			
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1.2.3.4前	2									兼1
	健康科学理論	1.2.3.4前	1									兼1
	健康スポーツ実践	1.2.3.4後	1									兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1									兼2
	医学英語Ⅱ	1後	1									兼2
	英語(基礎)	1.2.3.4後	1									兼2
	英語(応用)	1.2.3.4後	1									兼2
	英会話	1.2.3.4後	1									兼2
	韓国語*	1通	2									兼1
	中国語*	1通	2									兼1
小計(32科目)	-	16	31	-	6	1	5	1	2		兼41	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1									兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1									兼1
	小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0		兼1

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置				兼 任 ・ 兼 担	
			単 位 数	講 義	実 験	講 義	実 験	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目 （ 専 門 基 礎 科 目 ）	解剖学Ⅰ	1前	1			1					
	解剖学Ⅱ	1後	1			1					
	解剖学実習	1通	1			1			2		
	生理学Ⅰ	1前	1							兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1							兼1	
	生理学実習	1後	1				1		2	兼2	
	病理学	1後	1			1					
	臨床医学概論	1前	2			1					
	公衆衛生学	1.2.3後		2							兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1			1					
	内科学Ⅱ	2後	1			1					
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1
	整形外科Ⅰ	2後	1								兼1
	整形外科Ⅱ	2後	1			1					
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1
	精神医学Ⅱ	2.3後		1							兼1
	小児科学	2前	1								兼1
	老年学	2後	1								兼1
	人間発達学	1前	2								兼1
	臨床心理学概論	2前	2								兼1
	救急医学	2前	1								兼1
	基礎薬理学	1後	1								兼1
	栄養学	1.2.3後		1							兼1
	カウンセリング論	1.2.3前		1							兼1
	リスクマネジメント論	3前		2		1					
	ケアマネジメント論	1.2.3前		1							兼1
	医用画像診断学	3後	1			1					
	運動学Ⅰ	1前	1					1			
	運動学Ⅱ	1後	1					1			
	運動生理学	2前	1					1			
	運動学実習	2前	1				1			2	
	リハビリテーション概論	1前	2			1					
	保健医療福祉制度論	1.2.3後		2							兼1
	関連職種連携論	2後	2			1					兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1					4		2	兼8
小計(37科目)	-	-	35	10	-	7	1	4	0	2	兼21

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼修	
			必修	選択	自由	専任	非常勤	助教	助産		
専門教育科目(専門科目)	理学療法概論	1前	1			1					
	運動解剖学	1後	1					1	2		
	病態運動学	3後	1					1			
	物理療法 I	2前	1				1				
	物理療法 II	2後	1				1				
	PTスキル I 演習(キャリアデザイン)	1後	1				1		2		
	PTスキル II 演習(検査・測定)	2後	1				1		2		
	PTスキル III 演習(障害理解)	3前	1				1		2		
	PTスキル IV 演習(専門知識の確認)	3後	1				1		2		
	理学療法評価学	1後	1				1				
	理学療法診断学 I (基礎)	2前	2				1				
	理学療法診断学 II (神経診断学)	2前	1				1				
	理学療法診断学 III (疾患別評価)	2後	1					1			
	理学療法診断学 IV (電気診断学)	2,3後	1	1			1				
	バイオメカニクス	1前	1				1				
	動作分析学	2,3後	1	1			1				
	運動療法学総論	2前	2				1				
	理学療法治療学総論	3前	1					1			
	運動系理学療法学 I	3前	2					1			
	運動系理学療法学 II	3後	2				1				
	神経系理学療法学 I	3前	2				1				
	神経系理学療法学 II	3後	2				1				
	高次脳機能障害学	3後	1	1			1				
	代謝系理学療法学	3後	1				1				
	循環理学療法学	3後	1				1				
	呼吸理学療法学	3前	2				1				
	癌のリハビリテーション	2,3後	1	1			2				
	装具学	2前	1				1				
	義肢学	2後	1				1				
	生活環境学	2前	1				1				
	生活技術学	2後	2				1				
	地域理学療法学	2前	1				1				
	福祉住環境論	3前	1	1			1				
	小児理学療法学	2後	2							兼1	
	理学療法技術学	3後	1					1			
	先端リハビリテーション科学	3後	1				1				
	クリニカルリーズニング	3後	1					1			
	産科理学療法学	3前	1							兼1	
	障害者スポーツ概論	2,3前	1				1				
	理学療法特論 I (基礎)	4後	1				1				
	理学療法特論 II (応用)	4後	1				1				
	リハビリテーション管理論	3後	1				1			兼1	
	基礎実習 I	1前	1	1	1	1	4	1	2		
	基礎実習 II	1後	1	1	1	1	4	1	2		
	検査測定実習	3前	2	1	1	1	4	1	2		
	評価実習	3後	3	1	1	1	4	1	2		
	臨床実習 I	4前	7	1	1	1	4	1	2		
	臨床実習 II	4前	7	1	1	1	4	1	2		
	地域理学療法学実習	4前	1	1	1	1	4	1	2		
	卒業研究 I (研究計画の立案)	3後	2	1	1	1	4	1	2		
	卒業研究 II (研究の実践)	4後	2	1	1	1	4	1	2		
小計(51科目)	-	67	10	-	3	1	4	1	2	兼2	
合計(120科目)	-	118	51		8	1	5	1	2	兼47	
合計(124科目)(留学生)	-	122	51		8	1	5	1	2	兼48	
卒業要件及び履修方法											
卒業要件124単位 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修102単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:67単位)。これ以外に専門教育科目全体から1単位以上選択。(履修課目の登録の上限 49単位(年間))											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 教育効果を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「文学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「アジア比較文化論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「英語(基礎)」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「解剖学実習」の配当年次を「1前」から「1通」に変更。

【令和2年度】

- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4後」から「1,2,3,4前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「韓国語」の配当年次を「1後」から「1通」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「中国語」の配当年次を「1後」から「1通」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「整形外科学Ⅰ」を「2前」から「2後」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「ケアマネジメント論」を「1,2,3前」から「1,2,3後」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「理学療法診断学Ⅰ(基礎)」を「2前」から「2通」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「理学療法診断学Ⅱ(神経診断学)」を「2前」から「2通」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「物理療法Ⅰ」を「2前」から「2通」に変更。
- ・ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、「教育評価学」を新設。
- ・ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、「救急医学」を「選択」から「必修」に変更。
- ・ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、授業科目の名称を「薬理学」から「基礎薬理学」に、また「選択」から「必修」に変更。

【令和3年度】

- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「コミュニケーション概論」の配当年次を「1,2,3,4後」から「1,2,3,4前」に変更。
- ・ 昨年度、新型コロナウイルス感染症対策で移動した、「ケアマネジメント論」を「1,2,3後」から「1,2,3前」に変更。
- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「保健医療福祉制度論」の配当年次を「1,2,3前」から「1,2,3後」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「関連職種連携論」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・ 昨年度、新型コロナウイルス感染症対策で移動した、「物理療法Ⅰ」を「2通」から「2前」に変更。
- ・ 昨年度、新型コロナウイルス感染症対策で移動した、「理学療法診断学Ⅰ(基礎)」を「2通」から「2前」に変更。
- ・ 昨年度、新型コロナウイルス感染症対策で移動した、「理学療法診断学Ⅱ(神経診断学)」を「2通」から「2前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「検査測定実習」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。

【令和4年度】

- ・ 本年度前期の時間割と学生の負担軽減を考慮し、「コミュニケーション概論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
79 科目	40 科目	0 科目	119 科目	81 科目 [2]	39 科目 [Δ1]	0 科目 [0]	120 科目 [1]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当事項なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{\#REF!} = \boxed{\#REF!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	R3年度より国際医療福祉大学福岡看護学部を設置者変更したことに より校地等面積増(3) その他 福祉施設相当分532㎡ 土地面積11,558㎡を建物 延べ床面積で按分					
	校舎敷地	21,415.83 ㎡ 10,280.29-㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,415.83 ㎡ 10,280.29-㎡						
	運動場用地	745.71㎡	0 ㎡	0 ㎡	745.71㎡						
	小 計	22,161.54 ㎡ 11,026.00-㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,161.54 ㎡ 11,026.00-㎡						
	そ の 他	532.00㎡	0 ㎡	0 ㎡	532.00㎡						
	合 計	22,693.54 ㎡ 11,558.00-㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,693.54 ㎡ 11,558.00-㎡						
(2) 校舎	専 用	21,130.55 ㎡ 10,943.35-㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,130.55 ㎡ 10,943.35-㎡	R3年度より国際医療福祉大学福岡看護学部を設置者変更したことに より校地等面積増(3)					
	(10,943.35 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(10,943.35 ㎡)							
(3) 教室等	講義室	19室	演習室	1室	実験実習室	26室	情報処理学習施設	1室	語学学習施設	(1)室	3学科で使用 語学学習施設は情報処理 学習施設を兼ねる。 R1、R2記載漏れ(3)
	(補助職員 1人)		(補助職員 (1)人)								
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数		令和2年度に個室を増 やす改装を実施(3)				
	医療学部				28	3		室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	図書、雑誌の冊数の計 画時との差異は、図書 は廃刊と代替書籍の確 保から入荷と決済時期 の差異によるものであ り、学術雑誌は教育研 究の質的向上のため扱 い種を増やしたため。 また、視聴覚資料は教 育的效果を高めるため 点数を増やした(3)			
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル					点	点	点
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点					
	医療学部	16,238 [796] -(793) -(16,069) -(15,043) -(793)	196 [27] -(136 [17]) -(104 [11]) -(136 [17]) -(104 [11])	16,593 [7061] 8,350 [—] (8,350 [—])	1,166 (1,164) -(1,145) (1,164) -(1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)				
計	16,238 [796] -(793) -(16,069) -(15,043) -(793)	196 [27] -(136 [17]) -(104 [11]) -(136 [17]) -(104 [11])	16,593 [7061] 8,350 [—] (8,350 [—])	1,166 (1,164) -(1,145) (1,164) -(1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)					
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	297.71㎡		114席		17,000冊						
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				認可時及びR2までのAC 記載漏れ(3)				
	1,245.37㎡		テニスコート兼フットサルコート 1面 (745.00㎡)								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費と設備購入 費は令和2年度末まで に整備済(3)		
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	18,463千円 18,963千円	5,784千円 6,117千円	31,198千円 3,000千円			
	共同研究費等	1,000千円	3,000千円	設備購入費	122,668千円 173,151千円	95,026千円 167,438千円	365,635千円 3,000千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			雑収入ほか								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	福岡国際医療福祉大学						学生募集停止学科数	—	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療学部											
理学療法学科	4	40	-	160	学士(理学療法)	1.11	1.05	-	平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法)	1.12	1.12	-	平成31	同上	
視能訓練学科	4	40	-	160	学士(視能訓練)	1.08	1.10	-	平成31	同上	
看護学部											
看護学科	4	100	-	400	学士(看護)	1.11	1.11	-	平成21	福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4	令和3年4月1日より、国際医療福祉大学から福岡国際医療福祉大学へ設置者変更。併せて福岡看護学部から看護学部へ学部名称変更(3)
大学全体	-	220	-	880	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医療学部 理学療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学長)	今泉 勉 (71) <平成31年4月> 医学博士	リスクマネジメント論 臨床医学概論	専	教授(学長)	今泉 勉 (72) <平成31年4月> 医学博士	リスクマネジメント論 臨床医学概論	専	教授(学長)	今泉 勉 (73) <平成31年4月> 医学博士	リスクマネジメント論 臨床医学概論	専	教授(学長)	今泉 勉 (74) <平成31年4月> 医学博士	リスクマネジメント論 臨床医学概論
専	教授(副学長)	丸山 仁司 (69) <令和2年4月> 工学修士 医学博士	先端リハビリテーション科学 癌のリハビリテーション リハビリテーション管理論	専	教授(副学長)	丸山 仁司 (68) <令和2年4月> 工学修士 医学博士	先端リハビリテーション科学 癌のリハビリテーション リハビリテーション管理論	専	教授(副学長)	丸山 仁司 (70) <令和2年4月> 工学修士 医学博士	先端リハビリテーション科学 癌のリハビリテーション リハビリテーション管理論	専	教授(副学長)	丸山 仁司 (71) <令和2年4月> 工学修士 医学博士	先端リハビリテーション科学 癌のリハビリテーション リハビリテーション管理論
専	教授(学長)	椋 幸伸 (59) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 リハビリテーション概論 関連職種連携論 理学療法概論 装具学 義肢学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)	専	教授(学長)	椋 幸伸 (59) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 リハビリテーション概論 関連職種連携論 理学療法概論 装具学 義肢学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)	専	教授(学長)	椋 幸伸 (60) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 リハビリテーション概論 関連職種連携論 理学療法概論 装具学 義肢学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)	専	教授(学長)	椋 幸伸 (62) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 リハビリテーション概論 関連職種連携論 理学療法概論 装具学 義肢学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)
専	教授	諫山 照刀 (68) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ	専	教授	諫山 照刀 (67) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ	専	教授	諫山 照刀 (68) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ	専	教授	諫山 照刀 (69) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ
専	教授	小坂 克子 (64) <平成31年4月> 歯学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習	専	教授	小坂 克子 (64) <平成31年4月> 歯学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習	専	教授	小坂 克子 (65) <平成31年4月> 歯学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習	専	教授	小坂 克子 (66) <平成31年4月> 歯学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習
専	教授	黒岩 俊郎 (64) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 癌のリハビリテーション 医用画像診断学	専	教授	黒岩 俊郎 (63) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 癌のリハビリテーション 医用画像診断学	専	教授	黒岩 俊郎 (64) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 癌のリハビリテーション 医用画像診断学	専	教授	黒岩 俊郎 (65) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 癌のリハビリテーション 医用画像診断学
専	教授	佐伯 和彦 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅱ	専	教授	佐伯 和彦 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅱ	専	教授	佐伯 和彦 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅱ	専	教授	佐伯 和彦 (56) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅱ
専	教授	田川 辰也 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ	専	教授	田川 辰也 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ	専	教授	田川 辰也 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ	専	教授	田川 辰也 (56) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ
専	准教授	玉利 誠 (43) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学実習 動作分析学 神経理学療法Ⅰ 高次脳機能障害学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)	専	准教授	玉利 誠 (42) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学実習 動作分析学 神経理学療法Ⅰ 高次脳機能障害学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)	専	准教授	玉利 誠 (44) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学実習 動作分析学 神経理学療法Ⅰ 高次脳機能障害学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)	専	准教授	玉利 誠 (45) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学実習 動作分析学 神経理学療法Ⅰ 高次脳機能障害学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)
専	教授	工藤 祥 (69) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 癌のリハビリテーション 医用画像診断学	専	教授	工藤 祥 (70) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 癌のリハビリテーション 医用画像診断学	専	教授	工藤 祥 (71) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 癌のリハビリテーション 医用画像診断学	専	教授	工藤 祥 (72) <令和2年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 癌のリハビリテーション 医用画像診断学

専							池田 拓郎 (42) <令和3年4月> 博士 (保健医療学)	池田 拓郎 (43) <令和3年4月> 博士 (保健医療学)			
							海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 運動学実習 動作分析学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 運動学実習 動作分析学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践)			
専							堀本 ゆかり (57) <令和3年4月> 博士 (保健医療学)	堀本 ゆかり (58) <令和3年4月> 博士 (保健医療学)			
							神経系理学療法Ⅰ 高次脳機能障害学	神経系理学療法Ⅰ 高次脳機能障害学			
専	講師	吉村 美香 (46) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携ワーク PTスキルⅡ演習 (検査・測定) 生活環境学 生活技術学 地域理学療法 福祉学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践)	専	講師	吉村 美香 (45) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携ワーク PTスキルⅡ演習 (検査・測定) 生活環境学 生活技術学 地域理学療法 福祉学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践)	専	講師	吉村 美香 (48) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携ワーク PTスキルⅡ演習 (検査・測定) 生活環境学 生活技術学 地域理学療法 福祉学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践)
兼任	講師	吉村 美香 (45) <平成31年4月> 修士 (保健医療学)	基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	吉村 美香 (47) <平成31年4月> 修士 (保健医療学)	基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	吉村 美香 (48) <平成31年4月> 修士 (保健医療学)	基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
専	講師	山之口 稔隆 (39) <平成31年4月> 修士 (医療経営管理)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 統計学 医療とICT 生理学実習	専	講師	山之口 稔隆 (39) <平成31年4月> 修士 (医療経営管理)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 統計学 医療とICT 生理学実習	専	講師	山之口 稔隆 (41) <平成31年4月> 修士 (医療経営管理)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 統計学 医療とICT 生理学実習
専	講師	吉塚 久記 (39) <令和2年4月> 修士 (医科学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習 (キャリアデザイン) PTスキルⅢ演習 (障害理解) 理学療法評価学 バイオメカニクス 運動療法総論 障害者スポーツ概論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践) 関連職種連携ワーク	専	講師	吉塚 久記 (38) <令和2年4月> 修士 (医科学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習 (キャリアデザイン) PTスキルⅢ演習 (障害理解) 理学療法評価学 バイオメカニクス 運動療法総論 障害者スポーツ概論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践) 関連職種連携ワーク	専	講師	吉塚 久記 (41) <令和2年4月> 修士 (医科学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習 (キャリアデザイン) PTスキルⅢ演習 (障害理解) 理学療法評価学 バイオメカニクス 運動療法総論 障害者スポーツ概論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	吉塚 久記 (38) <平成31年4月> 修士 (医科学)	運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習 (キャリアデザイン) 理学療法評価学 バイオメカニクス 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	吉塚 久記 (38) <平成31年4月> 修士 (医科学)	運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習 (キャリアデザイン) 理学療法評価学 バイオメカニクス 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	吉塚 久記 (41) <平成31年4月> 修士 (医科学)	運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習 (キャリアデザイン) 理学療法評価学 バイオメカニクス 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
専	講師	光武 翼 (34) <平成31年4月> 博士 (医学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 運動生理学 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 理学療法診断学Ⅱ (神経診断学) 理学療法診断学Ⅳ (電気診断学) 神経系理学療法Ⅱ 理学療法特論Ⅰ (基礎) 理学療法特論Ⅱ (応用) 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践) 関連職種連携ワーク	専	講師	光武 翼 (34) <平成31年4月> 博士 (医学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 運動生理学 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 理学療法診断学Ⅱ (神経診断学) 理学療法診断学Ⅳ (電気診断学) 神経系理学療法Ⅱ 理学療法特論Ⅰ (基礎) 理学療法特論Ⅱ (応用) 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践) 関連職種連携ワーク	専	講師	光武 翼 (37) <平成31年4月> 博士 (医学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 運動生理学 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 理学療法診断学Ⅱ (神経診断学) 理学療法診断学Ⅳ (電気診断学) 神経系理学療法Ⅱ 理学療法特論Ⅰ (基礎) 理学療法特論Ⅱ (応用) 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ (研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ (研究の実践) 関連職種連携ワーク

兼任 助教	王 美蘭 (45) <平成31年4月> 博士 (法学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 法学 中国語	兼任 助教	王 美蘭 (45) <平成31年4月> 博士 (法学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 法学 中国語	兼任 助教	王 美蘭 (46) <平成31年4月> 博士 (法学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 法学 中国語	兼任 助教	王 美蘭 (47) <平成31年4月> 博士 (法学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 法学 中国語	兼任 助教	王 美蘭 (48) <平成31年4月> 博士 (法学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 法学 中国語
			兼任 助教	赤川 真由美 (53) <令和元年9月> Doctor of Education		兼任 助教	赤川 真由美 (54) <令和元年9月> Doctor of Education		兼任 助教	赤川 真由美 (55) <令和元年9月> Doctor of Education		兼任 講師	Jenny Anne McDonald (42) <令和3年4月> 学士 (文学)	
兼任 助教	潮井川 修一 (42) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク	兼任 助教	潮井川 修一 (41) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク	兼任 助教	潮井川 修一 (42) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク	兼任 助教	潮井川 修一 (43) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク	兼任 助教	潮井川 修一 (44) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク
兼任 助教	吉田 亮平 (40) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携ワーク	兼任 助教	吉田 亮平 (39) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携ワーク	兼任 助教	吉田 亮平 (40) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携ワーク	兼任 助教	吉田 亮平 (41) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携ワーク	兼任 助教	吉田 亮平 (42) <令和2年4月> 修士 (保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携ワーク
兼任 講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士 (経済学)	経済学	兼任 講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士 (経済学)	経済学	兼任 講師	今泉 博国 (71) <平成31年4月> 修士 (経済学)	経済学	兼任 講師	今泉 博国 (71) <平成31年4月> 修士 (経済学)	経済学	兼任 講師	今泉 博国 (71) <平成31年4月> 修士 (経済学)	経済学
兼任 講師	今井 克己 (60) <平成31年4月> 博士 (保健学)	栄養学	兼任 講師	今井 克己 (61) <平成31年4月> 博士 (保健学)	栄養学	兼任 講師	今井 克己 (62) <平成31年4月> 博士 (保健学)	栄養学	兼任 講師	今井 克己 (63) <平成31年4月> 博士 (保健学)	栄養学	兼任 講師	今井 克己 (64) <平成31年4月> 博士 (保健学)	栄養学
兼任 講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士 (教育学)	教育学	兼任 講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士 (教育学)	教育学	兼任 講師	飯田 史也 (58) <平成31年4月> 博士 (教育学)	教育学	兼任 講師	飯田 史也 (59) <平成31年4月> 博士 (教育学)	教育学	兼任 講師	飯田 史也 (60) <平成31年4月> 博士 (教育学)	教育学
兼任 講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士 (生物学)	生物学	兼任 講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士 (生物学)	生物学	兼任 講師	原北 祥悟 (30) <令和2年4月> 博士 (教育学)	教育評価学	兼任 講師	原北 祥悟 (31) <令和2年4月> 博士 (教育学)	教育評価学	兼任 講師	原北 祥悟 (3132) <令和2年4月> 博士 (教育学)	教育評価学
兼任 講師	後藤 純信 (58) <令和2年4月> 博士 (医学)	救急医学	兼任 講師	後藤 純信 (57) <令和2年4月> 博士 (医学)	救急医学	兼任 講師	世波 貴子 (58) <平成31年4月> 修士 (生物学)	生物学	兼任 講師	世波 貴子 (59) <平成31年4月> 修士 (生物学)	生物学	兼任 講師	世波 貴子 (60) <平成31年4月> 修士 (生物学)	生物学
兼任 講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理学 I	兼任 講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理学 I	兼任 講師	後藤 純信 (58) <令和2年4月> 博士 (医学)	救急医学	兼任 講師	後藤 純信 (59) <令和2年4月> 博士 (医学)	救急医学	兼任 講師	後藤 純信 (60) <令和2年4月> 博士 (医学)	救急医学
兼任 講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士 (理学)	物理学	兼任 講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士 (理学)	物理学	兼任 講師	森本 幸生 (59) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理学 I	兼任 講師	森本 幸生 (60) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理学 I	兼任 講師	森本 幸生 (61) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理学 I
兼任 講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士 (保健福祉学)	社会学	兼任 講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士 (保健福祉学)	社会学	兼任 講師	安本 誠一 (53) <平成31年4月> 博士 (理学)	物理学	兼任 講師	安本 誠一 (54) <平成31年4月> 博士 (理学)	物理学	兼任 講師	安本 誠一 (55) <平成31年4月> 博士 (理学)	物理学
兼任 講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士 (文学)	日本語 I 日本語 II 日本語 III 日本語 IV	兼任 講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士 (文学)	日本語 I 日本語 II 日本語 III 日本語 IV	兼任 講師	今井 竜也 (46) <令和3年4月> 博士 (学術)	社会学	兼任 講師	今井 竜也 (46) <令和3年4月> 博士 (学術)	社会学	兼任 講師	今井 竜也 (4647) <令和3年4月> 博士 (学術)	社会学

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各職の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の歳年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み)、兼担、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・本務校の都合により杉原浩郎講師（兼任）の担当が難しくなったため、福井讓講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により裏永珍講師（兼任）の担当が難しくなったため、黄慶旭講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和2年度】

- ・令和元年9月サミファンニイファラマルズ講師（兼担）就任（教員審査省略）。
- ・黒岩俊郎教授就任辞退により、工藤祥教授に変更。令和元年12月A C教員審査済み。
- ・新科目「教育評価学」の設置に伴い、原北祥悟講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・本人の都合により馬原直矢講師（兼任）の担当が難しくなったため、澤真澄講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本務校の都合により福井讓講師（兼任）の担当が難しくなったため、山本秀也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により漆川沙弥香講師（兼任）の担当が難しくなったため、高嶋美和講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により武藤ゆう講師（兼任）の担当が難しくなったため、安河内敬太講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和3年度】

- ・令和3年4月池田拓郎講師就任。令和3年1月A C教員審査済み。
- ・玉利誠准教授（専任）の退職に伴い、「神経系理学療法学Ⅰ」「高次脳機能障害学」を堀本ゆかり講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・本務校の都合により財津裕一教授（兼任）の担当が一部難しくなったため、「保健医療福祉制度論」を辻雅善講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・志岐早苗助教（専任）の退職に伴い、「医学英語Ⅰ」「英語（応用）」をJenny Anne MacDonald講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・志岐早苗助教（専任）の退職に伴い、「コミュニケーション概論」を田原直美講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・本人の都合により今泉博国講師（兼任）の担当が難しくなったため、吉川卓也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により桑野博文講師（兼任）の担当が難しくなったため、今井竜也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により高嶋美和講師（兼任）の担当が一部難しくなったため、「産科理学療法学」を漆川沙弥香講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により吉原雅子講師（兼任）の担当が難しくなったため、土持貴志講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和4年度】

- ・令和3年3月、自己都合によりサミファンニイファラマルズ講師（兼担）自己都合退職に伴い、「医学英語Ⅱ」「英語（基礎）」「英会話」をJenny Anne MacDonald講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（A C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
8	1	5	1	15	0	8	0	6	1	15	1
(5)	(1)	(2)	(1)	(9)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
8	0	6	1	15	1	8	0	6	2	15	0
[0]	[Δ1]	[1]	[0]	[0]	[1]	[1]	[Δ1]	[1]	[1]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	5 名	5 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{15}{15} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{5}{15} = \boxed{33.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	黒岩 俊郎	R1.10	必修	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	①	一身上の都合により就任辞退（2）			
				必修	癌のリハビリテーション	①				
				選択	医用画像診断学	①				
合計（D）			後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	准教授	玉利 誠	R2.6	必修	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	①	一身上の都合により辞任（3）						
				必修	運動学実習	①							
				選択	動作分析学	①							
				必修	神経生理学療法学Ⅰ	②							
				選択	高次脳機能障害学	②							
				必修	基礎実習Ⅰ	①							
				必修	基礎実習Ⅱ	①							
				必修	検査測定実習	①							
				必修	評価実習	①							
				必修	臨床実習Ⅰ	①							
				必修	臨床実習Ⅱ	①							
				必修	地域理学療法学実習	①							
				必修	卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）	①							
				必修	卒業研究Ⅱ（研究の実践）	①							
2	教授	諫山 照刀	R4.3	必修	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	①	一身上の都合により辞任（4）						
				必修	整形外科科学Ⅰ	①							
合計（F）			後任補充状況の集計（G）										
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
2	人	必修	13	科目	必修	12	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	15	科目	計	13	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3	人	必修	15 科目	必修	14	必修	1	必修	0 科目
		選択	3 科目	選択	2	選択	1	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0	自由	0	自由	0 科目
		計	18 科目	計	16 科目	計	2 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{15} = \boxed{20} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	— 科目	必修	— 科目	必修	— 科目	必修	— 科目
		選択	— 科目	選択	— 科目	選択	— 科目	選択	— 科目
		自由	— 科目	自由	— 科目	自由	— 科目	自由	— 科目
		計	— 科目	計	— 科目	計	— 科目	計	— 科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>就任辞退した黒岩俊郎教授と同じ専門分野の専任教員を新規に採用し、黒岩教員の担当予定であった授業科目を担当する。このことにより、当初計画から授業科目を減することなく担当しているので教育研究上の機能は十分維持できており、学生への履修等の影響はないと考える。学生に対する必要な連絡事項等は、年次初めのオリエンテーションにおいて学科毎に周知している。(2)</p> <p>昨年辞任した玉利准教授が担当していた科目を指導できる同様の専門分野の専任教員を新規に採用し、玉利准教授の担当科目の大半(14科目中12科目)を担当する。なお、神経系理学療法学Ⅰと高次脳機能障害学の2科目については、まさに専門としている姉妹校の国際医療福祉大学福岡保健医療学部理学療法学科教授に非常勤を依頼したので、当初計画から授業科目を減することなく運営できているので、教育研究上の機能は十分維持できており、学生への履修等の影響はないと考える。また、学生に対する必要な連絡事項等は、理学療法学科の学生には学科長から直接周知が伝わっている。さらに兼任教員として指導にあたっていた作業療法学科と視能訓練学科の学生には、それぞれの学科長から該当する学生に直接連絡が伝わっており、大きな混乱はない。今後は、非常勤に依頼している科目を担当できる専任教員を公募し、採用にあたる予定である。(3)</p> <p>昨年度辞任した諫山照刀教授と同じ専門分野の専任教員を新規に採用し、諫山教授の担当科目であった授業科目を担当する(令和3年12月AC教員審査済)。このことにより当初計画から授業科目を減することなく開講しているので、教育研究上の機能は十分維持できており、学生への履修等の影響はないと考える。学生に対する必要な連絡事項等は、年度初めのオリエンテーションにおいて周知している(4)</p>
--

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 設置の趣旨・目的を十分に踏まえ、設置計画を確実に履行するための運営組織を整えて教育研究活動を開始した。4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うため、学長は、教授会を始め諸会議体を通じて教育目標、カリキュラムの体系等について合意形成を図る。	履行中
認 可 時 (平成30年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 高い教育水準を達成するため、優れた教育研究能力を有する教員を配置したことから、開設当初は1名の教員が定年規程の退職年齢を超えている。また、完成年度には5名の教員が退職年齢を超えることとなる。これらの教員は、定年延長に関する内規の適用を受けるものであるが、完成年度後に定年を迎える教員も含め、教育研究の水準を維持しつつ教員年齢のバランスに配慮し、中長期的視野に立った人事計画を策定し教員組織を整備することとしている。	履行中
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	該当なし		

設置計画履行状況 調査時 (令和4年)	該当なし		
---------------------------	------	--	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見直しなど
<p>① 修了要件単位数 124単位 必修科目116単位、選択科目8単位</p> <p>② 科目名称及び必修・選択区分の変更</p> <p>③ 新規科目の追加</p> <p>④ 入学者選抜の概要 以下の入試区分を実施。 ※()内：各学科募集人員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校推薦入試[公募制・指定校制](12名) ・一般入試[前期日程・後期日程](23名) ・大学入試センター試験利用入試(5名) ・帰国生徒特別選抜入試(若干名) ・留学生特別選抜入試(若干名) ・社会人特別選抜入試(若干名) 	<p>① 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、一部選択科目を必修科目へ変更。(2) 126単位 必修科目118単位、選択科目8単位</p> <p>② 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、「救急医学」を「選択」から「必修」に変更。授業科目の名称を「薬理学」から「基礎薬理学」に、また「選択」から「必修」に変更。(2)</p> <p>③ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、総合教育科目に「教育評価学」を追加。(2)</p> <p>④ 入学希望者の受験機会を増やすため、令和2年度入学者選抜よりA0入試（選抜方法：書類審査・小論文・個別面接）を追加。これに伴い、募集人員も一部変更。 また、文部科学省による大学入学者選抜実施要項の見直し方針に基づき、令和3年度入学者選抜より入試区分名を以下の通り変更。(2)</p> <p>※()内：各学科募集人員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校推薦入試→学校推薦型選抜[公募制・指定校制](12名) ・一般入試→一般選抜[前期日程・後期日程](20名) ・大学入試センター試験利用入試→大学入学共通テスト利用選抜(5名) ・帰国生徒特別選抜入試→帰国生徒特別選抜(若干名) ・留学生特別選抜入試→留学生特別選抜(若干名) ・社会人特別選抜入試→社会人特別選抜(若干名) ・A0入試→総合型選抜(3名)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>福岡国際医療福祉大学FD委員会を設置している。 SDについてもこの委員会での審議に基づき、取組みを展開することとしている。 FD委員会は教務委員会と連携し、教育の質の向上を目指すものである。 令和3年度からは、より効果を高めることを目的とし、FD・SD推進委員会と組織を改編した。(4)</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和元年度はFD委員会を計4回（10月・11月・12月・1月）開催した。 令和2年度はFD委員会を計9回（5月・6月・7月・9月・10月・12月・1月・2月・3月）開催した。各学科から1名ずつ選出された委員の参加状況は、毎回全員参加であった。 令和3年度はFD・SD推進委員会を計10回（5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月）開催した。(4)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学のグッドティーチング賞の要項整備と実施について ・本学のFD・SD研修会について(4) ・本年度のFD及びSD活動の基本方針について ・授業評価アンケートについて ・授業方法についての研究会について
--

② 実施状況

a 実施内容

オンラインを含め、年に4回のFD研修（全教員の参加を義務付ける。）開催のほか、テーマを設定した上で全教職員による研修会を開催した。

- ・第1回 第1回教員研修会「人権（差別）に関する研修」（講師：国際医療福祉大学総合教育センター 坂本真史 准教授・オンライン）
- ・第2回 第2回教員研修会「学生の特性を踏まえた効果的な実習指導に関する研修」（講師：作業療法学科 松田隆治 准教授、理学療法学科 池田拓郎 講師、視能訓練学科 松藤佳名子 准教授、言語聴覚専攻科 吉永明史 助教、看護学科 仙波洋子 准教授・対面、オンラインハイブリッド方式）
- ・第3回 第3回教員研修会「オープンな教育リソースについて」（講師：福岡国際医療福祉大学 作業療法学科 松田隆治 准教授、同 理学療法学科 山之口稔隆 講師）
- ・第4回 第4回教員研修会「グッドティーチング賞表彰式および報告会」

b 実施方法

- ・FD研修会を開催し、教育内容及び教育方法の向上の研修を行う。
- ・教務委員会で適正な成績評価基準の在り方等を検討、実施し、FD委員会で検証する。
- ・学外で開催されるFD研修会に参加した教員の知見を教授会、教務委員会等で報告し情報共有を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【平成30年度（設置認可前）】

平成30年8月15日・16日（設置認可前）に就任予定の教職員を集め、以下の内容で合宿研修を実施した。

- ・福岡国際医療福祉大学の設置構想について
- ・各学科の教育内容について
- ・リハビリテーションの現況について
- ・コンプライアンス（セクハラ、パワハラ、アカハラ等）について

【令和元年度（開学初年度）】

- ・後期試験の実施にあたり国家試験形式での出題の留意点や、試験作成のポイントに関する説明会を実施した。（参加状況：26名/28名 出席率：92.8%）
- ・ハラスメント防止委員会による「ハラスメント防止委員会」を開催した。（参加状況：22名/28名 出席率：78.5%）

【令和2年度（開学2年目）】

- ・第1回（令和2年7月22日） 新入生入学直後のUPI検査の結果を基に、新入生のメンタルヘルス状況について報告があり、また、精神的に問題を抱えている学生へのケアやフォローについて説明会を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）
- ・第2回（令和2年9月23日） 20年以上にわたる評価の手法や方法を評価方法を紹介し、それぞれの有効性や活用方法について講演を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）
- ・第3回（令和2年12月23日） スタンフォード大学で臨床・教育に従事していた氏の実体験から、予習中心のアクティブラーニングの実践と重要性、効果について講演を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%、ZOOM1名、録画視聴10名含む）
- ・第4回（令和3年3月24日） グッドティーチング賞選考発表と表彰式、および選考された3名の教員によるミニ講義を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）

【令和3年度（開学3年目）】

- ・第1回（令和3年8月24日） 薬剤師であり弁護士である国際医療福祉大学坂本真史准教授より、人権課題について、日本国憲法やイギリスの人権に関する歴史的経緯などを踏まえ講演があった。（参加状況：70名/73名、出席率95.9%）
- ・第2回（令和3年9月14日） 理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科、看護学科、言語聴覚専攻科からそれぞれ1名ずつの専任教員より、各学科固有の事情と実習の方法に関連し、学生の特性を踏まえた効果的な実習指導に関する報告と質疑が行われた。（参加状況：71名/73名、出席率97.3%）
- ・第3回（令和4年2月17日） OER（オープン教育資源）の具体例の提示や具体的な教育や研究への活用例について、2人の演者から具体的な例や活用する上で有効なツールの紹介などがあった。（参加状況：69名/73名、出席率94.5%）
- ・第4回（令和4年3月23日） グッドティーチング賞選考発表と表彰式、および選考された3名の教員によるミニ講義を実施した。（参加状況：51名/73名、執筆時点の出席率69.9%、当日欠席者についてはGoogle Classroomによる聴取集計中）

以上（4）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修を通じて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期の終盤にすべての授業科目で学生による評価アンケートを実施する。
アンケートは事務部学務課において集計し、学長へ報告する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

事務部学務課において集計したアンケート結果は、FD委員会で分析した上、各教員へ返却する。
学生には、結果全体の報告書を学生ポータルサイトに掲載する。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>本学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健全な人も、互いを認め合っ て暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すとともに、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深 い教養および総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を養成し、 地域医療はもとより国際社会にも貢献し得る有能な人材を養成することを目的に設置された。</p> <p>開学以降、医療者としての素養を育むための質の高い授業が行われており、総合教育科目の「医療とICT」「社会保 障制度論」「医学英語Ⅰ」などにおいて、科学的・論理的思考力を身に付け、国際化に対応できる視点を養う学修をして いる。専門基礎科目の「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「臨床医学概論」「リハビリテーション概論」などにおいて保健医療福 祉とリハビリテーションの理念について学修し、専門科目の「理学療法概論」「バイオメカニクス」などにおいて、基礎 理学療法学を学修している。なお、後期には、建学の精神に沿う「生命倫理」が開講される。</p> <p>設置の趣旨・目的を達成するための、幅広い教養、豊かな人間性、保健医療に関する基礎知識の獲得ができていくもの と捉えている。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <ul style="list-style-type: none">・設置初年度（2019年度）及び翌年度（2020年度）の2年間の教育研究活動を総括し、2021年6月下旬公表予定。 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none">・大学ホームページ上に公開予定 <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none">・完成年度（2022年度）後、適切な時期に受審の予定。
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を
含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書につ
いて記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ <input checked="" type="radio"/> 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>
--

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F140310110918

注3

設置年度 平成 31年度

計画の区分： 大学の設置

注1

認可

注2

福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人高木学園

令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 主任 ミズノ マサミチ
水野 真修

電話番号 092-832-1200

（夜間） 092-832-1200

e-mail fiuhw-secchi
@takagigakuen.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

医療学部

<作業療法学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	20
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	22
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高木学園

(2) 大学名

福岡国際医療福祉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒814-0001

福岡県福岡市早良区百道浜三丁目6番40号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成11年2月)		
学長	(イマイズミ ツトム) 今泉 勉 (平成31年4月)	(ハラ ヒデオ) 原 英夫 (令和4年4月)	今泉前学長の任期満了による学長交替(4)
学部長			
学科長等	(キタジマ エイジ) 北島 栄二 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医療学部 作業療法学科 学士（作業療法学）	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）	4 年	40 人	- 人	160 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	1.12 倍	-	
	()	()	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]			
志願者数	()	()	69	-	139	-	110	-	119	-	119	-			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[-]	[-]	[1]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
受験者数	()	()	69	-	139	-	109	-	119	-	119	-			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[-]	[-]	[1]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
合格者数	()	()	51	-	59	-	62	-	62	-	62	-			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[-]	[-]	[1]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
B 入学者数	()	()	47	-	44	-	44	-	45	-	45	-			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[-]	[-]	[1]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
入学定員超過率 B/A			1.17		1.10		1.10		1.12		1.12				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次			47 [-] (-)	- [-] (-)	44 [1] (-)	- [-] (-)	44 [-] (-)	- [-] (-)	45 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次					47 [-] (-)	- [-] (-)	44 [1] (1)	- [-] (-)	44 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次							44 [-] (3)	- [-] (-)	46 [-] (-)	- [-] (-)	
4年次									41 [-] (-)	- [-] (-)	
計			47 [-] (-)		91 [1] (-)		132 [1] (-)		176 [1] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	47 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	人	該当なし
令和2年度	91 人	2 人	平成30年度	人	人	該当なし
			令和元年度	2 人	人	学力不足(1名)、除籍(1名)
			令和2年度	0 人	人	該当なし
令和3年度	132 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	1 人	人	除籍(1名)
			令和2年度	0 人	人	該当なし
			令和3年度	1 人	人	病気療養(1名)
令和4年度	176 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	人	該当なし
			令和2年度	0 人	人	該当なし
			令和3年度	0 人	人	該当なし
			令和4年度	0 人	人	該当なし
合計		4 人		4 人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{47} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{91} = \boxed{2.19} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{132} = \boxed{1.51} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{176} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療学部 作業療学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2									兼1
	哲学	1.2.3.4前	1									兼1
	倫理学	1.2.3.4後	1									兼1
	文学	1.2.3.4前	1									兼1
	教育学	1.2.3.4後	2									兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.4後	2									兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1			1						
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前・後	2			7	2	2	2			兼25
	アジア比較文化論	1.2.3.4前	1									兼1
	法学	1.2.3.4前	1									兼1
	経済学	1.2.3.4後	1									兼1
	社会学	1.2.3.4前	1									兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.4後	2									兼1
	社会保障制度論	1前	2									兼1
	ボランティア論	1.2.3.4後	1									兼1
	生物学	1.2.3.4後	2									兼1
	物理学	1.2.3.4前	2									兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2				1					兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1.2.3.4前	2									兼1
	健康科学理論	1.2.3.4前	1									兼1
	健康スポーツ実践	1.2.3.4後	1									兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1									兼1
	医学英語Ⅱ	1後	1									兼1
英語(基礎)	1.2.3.4前	1									兼1	
英語(応用)	1.2.3.4後	1									兼1	
英会話	1.2.3.4後	1									兼1	
韓国語*	1後	2									兼1	
中国語*	1後	2									兼1	
小計(31科目)	-	16	29	-	7	2	2	2	0		兼39	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1									兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1									兼1
	小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0		兼1

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2									兼1
	哲学	1.2.3.4前	1									兼1
	倫理学	1.2.3.4後	1									兼1
	文学	1.2.3.4前	1									兼1
	教育学	1.2.3.4後	2									兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.4後	2									兼1
	教育評価学	1.2.3.4後	2									兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1			1						
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前・後	2			6	1	5	1	2		兼25
	アジア比較文化論	1.2.3.4前	1									兼1
	法学	1.2.3.4前	1									兼1
	経済学	1.2.3.4後	1									兼1
	社会学	1.2.3.4前	1									兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.4後	2									兼1
	社会保障制度論	1前	2									兼1
	ボランティア論	1.2.3.4後	1									兼1
	生物学	1.2.3.4後	2									兼1
	物理学	1.2.3.4前	2									兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2				1					兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1.2.3.4前	2									兼1
	健康科学理論	1.2.3.4前	1									兼1
	健康スポーツ実践	1.2.3.4後	1									兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1									兼1
医学英語Ⅱ	1後	1									兼1	
英語(基礎)	1.2.3.4前	1									兼1	
英語(応用)	1.2.3.4後	1									兼1	
英会話	1.2.3.4後	1									兼1	
韓国語*	1通	2									兼1	
中国語*	1通	2									兼1	
小計(32科目)	-	16	31	-	6	1	5	1	2		兼41	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1									兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1									兼1
	小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0		兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1								兼1
	解剖学Ⅱ	1後	1								兼1
	解剖学実習	1前	1								兼1
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	1後	1				1				兼2
	病理学	1後	1								兼1
	臨床医学概論	1前	2								兼1
	公衆衛生学	1.2.3後		2							兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1
	内科学Ⅱ	2後	1								兼1
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1
	整形外科Ⅰ	2前	1			1					
	整形外科Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1			1					
	精神医学Ⅱ	2後	1			1					
	小児科学	2前	1			1					
	老年学	2後	1								兼1
	人間発達学	1前	2								兼1
	臨床心理学概論	2前	2								兼1
	救急医学	2前	1								兼1
	薬理学	1後	1								兼1
	栄養学	1.2.3後		1							兼1
	カウンセリング論	1.2.3前		1							兼1
	リスクマネジメント論	3前		2							兼1
	ケアマネジメント論	1.2.3前		1							兼1
	医用画像診断学	3後	1								兼1
	運動学Ⅰ	1前	1			1					
	運動学Ⅱ	1後	1			1					
	運動生理学	2前	1				1				
	運動学実習	2前	1					1	2		
	リハビリテーション概論	1前	2			1					
	保健医療福祉制度論	1.2.3前		2							兼1
	関連職種連携論	2前	2			1					兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	2			兼8
小計(37科目)	-	36	9	-	5	0	2	2	2	兼25	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1								兼1
	解剖学Ⅱ	1後	1								兼1
	解剖学実習	1通	1								兼1
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	1後	1				1				兼2
	病理学	1後	1								兼1
	臨床医学概論	1前後	2								兼1
	公衆衛生学	1.2.3後		2							兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1
	内科学Ⅱ	2後	1								兼1
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1
	整形外科Ⅰ	2後	1			1					
	整形外科Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1			1					
	精神医学Ⅱ	2後	1			1					
	小児科学	2前	1			1					
	老年学	2後	1								兼1
	人間発達学	1前	2								兼1
	臨床心理学概論	2前	2								兼1
	救急医学	2前	1								兼1
	基礎薬理学	1後	1								兼1
	栄養学	1.2.3後		1							兼1
	カウンセリング論	1.2.3前		1							兼1
	リスクマネジメント論	3前		2							兼1
	ケアマネジメント論	1.2.3前		1							兼1
	医用画像診断学	3後	1								兼1
	運動学Ⅰ	1前	1			1					
	運動学Ⅱ	1後	1			1					
	運動生理学	2前	1				1				
	運動学実習	2前	1					1	2		
	リハビリテーション概論	1前	2			1					
	保健医療福祉制度論	1.2.3後		2							兼1
	関連職種連携論	2後	2			1					兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	2			兼8
小計(37科目)	-	36	9	-	5	0	2	2	2	兼25	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学(未開講)	1,2,3,4後	1								兼1
	倫理学	1,2,3,4後	1								兼1
	文学(未開講)	1,2,3,4後	1								兼1
	教育学	1,2,3,4後	2								兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4後	2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1			1					
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前・後	2			6	1	5	1	2	兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4後	1								兼1
	法学	1,2,3,4前	1								兼1
	経済学	1,2,3,4後	1								兼1
	社会学	1,2,3,4前	1								兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後	2								兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1,2,3,4後	1								兼1
	生物学	1,2,3,4後	2								兼1
	物理学	1,2,3,4前	2								兼1
	統計学	1後	2								兼1
	医療とICT	1前	2								兼1
	生命倫理	1後	2			1					
人間工学	1,2,3,4前	2								兼1	
健康科学理論	1,2,3,4前	1								兼1	
健康スポーツ実践	1,2,3,4後	1								兼1	
大学入門講座	1前	1			1					兼2	
医学英語Ⅰ	1前	1								兼1	
医学英語Ⅱ	1後	1								兼2	
英語(基礎)	1,2,3,4後	1								兼2	
英語(応用)	1,2,3,4後	1								兼2	
英会話	1,2,3,4後	1								兼2	
韓国語*	1後	2								兼1	
中国語*	1後	2								兼1	
小計(31科目)	-	16	29	-	6	1	5	1	2	兼40	
(留學生用)	日本語Ⅰ(未開講)	1-2-3-4前	1								兼1
	日本語Ⅱ(未開講)	1-2-3-4後	1								兼1
	日本語Ⅲ(未開講)	1-2-3-4前	1								兼1
	日本語Ⅳ(未開講)	1-2-3-4後	1								兼1
	小計(4科目)	-	4	-	0	0	0	0	0	兼1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学	1,2,3,4前	1								兼1
	倫理学	1,2,3,4後	1								兼1
	文学	1,2,3,4後	1								兼1
	教育学	1,2,3,4後	2								兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4後	2								兼1
	教育評価学	1,2,3,4後	2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1			1					
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前・後	2			6	1	5	1	2	兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4後	1								兼1
	法学	1,2,3,4前	1								兼1
	経済学	1,2,3,4後	1								兼1
	社会学	1,2,3,4前	1								兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後	2								兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1,2,3,4後	1								兼1
	生物学	1,2,3,4後	2								兼1
	物理学	1,2,3,4前	2								兼1
	統計学	1後	2								兼1
	医療とICT	1前	2								兼1
生命倫理	1後	2			1						
人間工学	1,2,3,4前	2								兼1	
健康科学理論	1,2,3,4前	1								兼1	
健康スポーツ実践	1,2,3,4後	1								兼1	
大学入門講座	1前	1			1					兼2	
医学英語Ⅰ	1前	1								兼1	
医学英語Ⅱ	1後	1								兼1	
英語(基礎)	1,2,3,4後	1								兼1	
英語(応用)	1,2,3,4後	1								兼1	
英会話	1,2,3,4後	1								兼1	
韓国語*	1後	2								兼1	
中国語*	1後	2								兼1	
小計(32科目)	-	16	31	-	6	1	5	1	2	兼41	
(留學生用)	日本語Ⅰ	1-2-3-4前	1								兼1
	日本語Ⅱ	1-2-3-4後	1								兼1
	日本語Ⅲ	1-2-3-4前	1								兼1
	日本語Ⅳ	1-2-3-4後	1								兼1
	小計(4科目)	-	4	-	0	0	0	0	0	兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1								兼1
	解剖学Ⅱ	1後	1								兼1
	解剖学実習	1通	1								兼1
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	1後	1				1				兼2
	病理学	1後	1								兼1
	臨床医学概論	1前	2								兼1
	公衆衛生学	1,2,3後		2							兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1
	内科学Ⅱ	2後	1								兼1
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1
	整形外科Ⅰ	2前	1			1					
	整形外科Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1			1					
	精神医学Ⅱ	2後	1			1					
	小児科学	2前	1			1					
	老年学	2後	1								兼1
	人間発達学	1前	2								兼1
	臨床心理学概論	2前	2								兼1
	救急医学	2前	1								兼1
	薬理学	1後	1								兼1
	栄養学	1,2,3後		1							兼1
	カウンセリング論	1,2,3前		1							兼1
	リスクマネジメント論	3前		2							兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1							兼1
	医用画像診断学	3後	1								兼1
	運動学Ⅰ	1前	1			1					
	運動学Ⅱ	1後	1			1					
	運動生理学	2前	1				1				
	運動学実習	2前	1					1	2		
	リハビリテーション概論	1前	2			1					
	保健医療福祉制度論	1,2,3前		2							兼1
	関連職種連携論	2前	2			1					兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	2			兼8
小計(37科目)	-	-	36	9	-	5	0	2	2	2	兼25

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1								兼1
	解剖学Ⅱ	1後	1								兼1
	解剖学実習	1通	1								兼1
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	1後	1					1			兼2
	病理学	1後	1								兼1
	臨床医学概論	1前	2								兼1
	公衆衛生学	1,2,3後		2							兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1
	内科学Ⅱ	2後	1								兼1
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1
	整形外科Ⅰ	2前	1				1				
	整形外科Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1			1					
	精神医学Ⅱ	2後	1			1					
	小児科学	2前	1			1					
	老年学	2後	1								兼1
	人間発達学	1前	2								兼1
	臨床心理学概論	2前	2								兼1
	救急医学	2前	1								兼1
	基礎薬理学	1後	1								兼1
	栄養学	1,2,3後		1							兼1
	カウンセリング論	1,2,3前		1							兼1
	リスクマネジメント論	3前		2							兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3後		1							兼1
	医用画像診断学	3後	1								兼1
	運動学Ⅰ	1前	1				1				
	運動学Ⅱ	1後	1				1				
	運動生理学	2前	1					1			
	運動学実習	2前	1						1	2	
	リハビリテーション概論	1前	2				1				
	保健医療福祉制度論	1,2,3前		2							兼1
	関連職種連携論	2前	2				1				兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1					2	2		兼8
小計(37科目)	-	-	36	9	-	5	0	2	2	2	兼25

【令和元年度】

Table for 令和元年度 (2019) showing course details, unit counts, and staff assignments. Includes a summary row for 120 courses (兼49) and 124 courses (兼50) for students.

【令和2年度】

Table for 令和2年度 (2020) showing course details, unit counts, and staff assignments. Includes a summary row for 121 courses (兼50) and 125 courses (兼51) for students.

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2									兼1
	哲学	1,2,3,4前	1									兼1
	倫理学	1,2,3,4後	1									兼1
	文学	1,2,3,4後	1									兼1
	教育学	1,2,3,4後	2									兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4前	2									兼1
	教育評価学	1,2,3,4後	2									兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1			1						
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前・後	2			6	1	5	1	2		兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4後	1									兼1
	法学	1,2,3,4前	1									兼1
	経済学	1,2,3,4後	1									兼1
	社会学	1,2,3,4前	1									兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後	2									兼1
	社会保障制度論	1前	2									兼1
	ボランティア論	1,2,3,4後	1									兼1
	生物学	1,2,3,4後	2									兼1
	物理学	1,2,3,4前	2									兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2									兼1
	生命倫理	1後	2			1						
	人間工学	1,2,3,4前	2									兼1
	健康科学理論	1,2,3,4前	1									兼1
	健康スポーツ実践	1,2,3,4後	1									兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1									兼1
	医学英語Ⅱ	1後	1									兼1
	英語(基礎)	1,2,3,4後	1									兼1
	英語(応用)	1,2,3,4後	1									兼1
	英会話	1,2,3,4後	1									兼1
	韓国語*	1通	2									兼1
	中国語*	1通	2									兼1
小計(32科目)	-	16	31	-	6	1	5	1	2		兼41	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1									兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1									兼1
	小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0		兼1

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 (専門基礎科目)	解剖学Ⅰ	1前	1									兼1
	解剖学Ⅱ	1後	1									兼1
	解剖学実習	1通	1									兼1
	生理学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理学Ⅱ	1後	1									兼1
	生理学実習	1後	1					1				兼2
	病理学	1後	1									兼1
	臨床医学概論	1前	2									兼1
	公衆衛生学	1.2.3後		2								兼1
	リハビリテーション医学	1後	1									兼1
	内科学Ⅰ	2前	1									兼1
	内科学Ⅱ	2後	1									兼1
	神経学Ⅰ	2前	1									兼1
	神経学Ⅱ	2後	1									兼1
	整形外科学Ⅰ	2後	1			1						
	整形外科学Ⅱ	2後	1									兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1			1						
	精神医学Ⅱ	2後	1			1						
	小児科学	2前	1			1						
	老年学	2後	1									兼1
	人間発達学	1前	2									兼1
	臨床心理学概論	2前	2									兼1
	救急医学	2前	1									兼1
	基礎薬理学	1後	1									兼1
	栄養学	1.2.3後		1								兼1
	カウンセリング論	1.2.3前		1								兼1
	リスクマネジメント論	3前		2								兼1
	ケアマネジメント論	1.2.3前		1								兼1
	医用画像診断学	3後	1									兼1
	運動学Ⅰ	1前	1			1						
	運動学Ⅱ	1後	1			1						
	運動生理学	2前	1					1				
	運動学実習	2前	1						1	2		
	リハビリテーション概論	1前	2			1						
	保健医療福祉制度論	1.2.3後		2								兼1
	関連職種連携論	2後	2			1						兼2
関連職種連携ワーク	3前	1					2	2			兼8	
小計(37科目)	-		36	9	-	5	0	2	2	2	兼25	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目（専門科目）	作業療法概論	1前	1			1							
	作業学概論	1前	1			1							
	作業応用論	2,3後	1	1								兼1	
	卒業研究Ⅰ	3後	2			2	2	2	2				
	卒業研究Ⅱ	4後	2			2	2	2	2				
	リハビリテーション管理論	3後	1			1							兼1
	作業療法総括論	4後	1			3	2	2	1				
	作業工程技術学・基礎論	1前	1					1					
	作業工程技術学・応用論	1後	1					1					
	作業分析学Ⅰ（基礎）	2前	1					1					
	作業分析学Ⅱ（応用）	2後	1					1					
	生活機能論	2前	1			1							
	作業療法評価学概論	2前	1			1							
	作業療法評価学各論	2後	1				1						
	基礎運動機能評価法	2後	1						1				
	高次脳機能評価法	2後	1						1				
	作業療法評価学演習	2後	1							1	2		
	作業療法諸理論	2,3後	1	1			1						
	中枢神経疾患作業療法Ⅰ（総論）	3前	1				1						
	中枢神経疾患作業療法Ⅱ（各論）	3後	1						1				
	中枢神経疾患作業療法Ⅲ（特論）	3後	1	1						1			
	高次脳機能障害作業療法	3前	1						1				
	老年期作業療法	3前	1						1				
	運動器疾患作業療法	3前	1							1			
	内科系疾患作業療法	3前	1				1						
	精神疾患作業療法Ⅰ	3前	1				1						
	精神疾患作業療法Ⅱ（各論）	3前	1				1						
	精神疾患作業療法Ⅲ（特論）	3後	1	1			1						
	小児作業療法Ⅰ（総論）	3前	1			1							
	小児作業療法Ⅱ（各論）	3後	1			1							
	小児作業療法Ⅲ（特論）	3後	1	1		1							
	作業療法適用学概論	2後	1						1				
	コミュニケーション技術論	3後	1				1						
	生活技術学Ⅰ（総論）	3前	1						1				
	生活技術学Ⅱ（各論）	3後	1						1				
	障害代償学概論	2後	1			1							
	自助具・福祉機器適用論	3前	1			1							
	装具・副子適用論	3後	1			1							
	義肢適用論	3前	1			1							
	バリアフリー論	2前	1			1							
	住環境整備論	3後	1			1							
	地域生活作業療法論	2前	1						1				
	地域生活支援論	1後	1			1							
	職業関連技術学	3後	1			1							
	作業療法応用学概論	3後	1			1							
	基礎実習Ⅰ	1前	1			2	1	2	2	2	2		
	基礎実習Ⅱ	1後	1			2	1	2	2	2	2		
	地域作業療法実習	2前	1			2	2	2	2	2	2		
	検査・測定実習	3後	1			2	2	2	2	2	2		
	評価実習	3後	3			2	2	2	2	2	2		
	総合実習Ⅰ	4前	8			2	2	2	2	2	2		
	総合実習Ⅱ	4前	8			2	2	2	2	2	2		
小計（52科目）	-	65	5	-	3	2	2	2	2	2	2	兼2	
合計（121科目）	-	117	45		8	2	2	2	2	2	2	兼50	
合計（125科目）（留学生）	-	121	45		8	2	2	2	2	2	2	兼51	
卒業要件及び履修方法													
卒業要件124単位以上 総合教育科目：必修16単位（人間系：2単位、社会系：5単位、自然・情報系：6単位、総合系：1単位、外国語系：2単位）。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択（「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。）。留学生は、必修20単位（人間系：2単位、社会系：5単位、自然・情報系：6単位、総合系：1単位、外国語系：2単位、日本語科目：4単位）。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目：必修101単位（専門基礎科目：36単位、専門科目：65単位）。これ以外に専門教育科目全体から2単位以上選択。（履修課目の登録の上限 49単位（年間））													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 教育効果を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「文学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「アジア比較文化論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「英語(基礎)」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「解剖学実習」の配当年次を「1前」から「1通」に変更。

【令和2年度】

- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4後」から「1,2,3,4前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「韓国語」の配当年次を「1後」から「1通」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「中国語」の配当年次を「1後」から「1通」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「ケアマネジメント論」を「1,2,3前」から「1,2,3後」に変更。
- ・ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、「教育評価学」を新設。
- ・ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、授業科目の名称を「薬理学」から「基礎薬理学」に変更。

【令和3年度】

- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「コミュニケーション概論」の配当年次を「1,2,3,4後」から「1,2,3,4前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「整形外科学Ⅰ」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・ 昨年度、新型コロナウイルス感染症対策で移動した、「ケアマネジメント論」を「1,2,3後」から「1,2,3前」に変更。
- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「保健医療福祉制度論」の配当年次を「1,2,3前」から「1,2,3後」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「関連職種連携論」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「老年期作業療法学」を「3後」から「3前」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「精神疾患作業療法学Ⅱ(各論)」を「3後」から「3前」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「義肢適用論」を「3後」から「3前」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「住環境整備論」を「3前」から「3後」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「職業関連技術学」を「3前」から「3後」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「検査・測定実習」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。

【令和4年度】

- ・ 本年度前期の時間割と学生の負担軽減を考慮し、「コミュニケーション概論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、「老年期作業療法学」は昨年度を踏襲し「3前」にて開講。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、「精神疾患作業療法学Ⅱ(各論)」は昨年度を踏襲し「3前」にて開講。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、「義肢適用論」は昨年度を踏襲し「3前」にて開講。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、「住環境整備論」は昨年度を踏襲し「3後」にて開講。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、「職業関連技術学」は昨年度を踏襲し「3後」にて開講。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
88 科目	32 科目	0 科目	120 科目	88 科目 [0]	33 科目 [1]	0 科目 [0]	121 科目 [1]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当事項なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{\#REF!} = \boxed{\#REF!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	R3年度より国際医療福祉大学福岡看護学部を設置者変更したことに より校地等面積増(3) その他 福祉施設相当分532㎡ 土地面積11,558㎡を建物 延べ床面積で按分			
	校舎敷地	21,415.83 ㎡ 10,280.29-㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,415.83 ㎡ 10,280.29-㎡				
	運動場用地	745.71㎡	0 ㎡	0 ㎡	745.71㎡				
	小 計	22,161.54 ㎡ 11,026.00-㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,161.54 ㎡ 11,026.00-㎡				
	そ の 他	532.00㎡	0 ㎡	0 ㎡	532.00㎡				
	合 計	22,693.54 ㎡ 11,558.00-㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,693.54 ㎡ 11,558.00-㎡				
(2) 校舎	専 用	21,130.55 ㎡ 10,943.35-㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,130.55 ㎡ 10,943.35-㎡	R3年度より国際医療福祉大学福岡看護学部を設置者変更したことに より校地等面積増(3)			
	(10,943.35 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(10,943.35 ㎡)					
(3) 教室等	講義室	19室	1室	26室	1室	3学科で使用 語学学習施設は情報処理 学習施設を兼ねる。 R1、R2記載漏れ(3)			
	演習室				(1)室 (補助職員(1)人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			令和2年度に個室を増 やす改装を実施(3)			
	医療学部		28 3 個室 2-4、共同 4 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書、雑誌の冊数の計 画時との差異は、図書 は廃刊と代替書籍の確 保から入荷と決済時期 の差異によるものであ り、学術雑誌は教育研 究の質的向上のため扱 い種を増やしたため。 また、視聴覚資料は教 育的效果を高めるため 点数を増やした(3) 図書、学術雑誌、電子 ジャーナル視聴覚資料 において冊数、点数に 変更が生じた(4)	
	医療学部	16,238 [796] -(793) -(16,069) -(15,043) -(793)	196 [27] -(136 [17]) -(104 [11]) -(136 [17]) -(104 [11])	16,593 [7061] 8,350 [—] (8,350 [—])	1,166 (1,164) -(1,145) (1,164) -(1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)		
	計	16,238 [796] -(793) -(16,069) -(15,043) -(793)	196 [27] -(136 [17]) -(104 [11]) -(136 [17]) -(104 [11])	16,593 [7061] 8,350 [—] (8,350 [—])	1,166 (1,164) -(1,145) (1,164) -(1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)		
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	297.71㎡		114席		17,000冊				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				認可時及びR2までのAC 記載漏れ(3)		
	1,245.37㎡		テニスコート兼フットサルコート 1面 (745.00㎡)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費と設備購入 費は令和2年度末まで に整備済(3)
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	18,463千円 18,963千円	5,784千円 6,117千円	31,198千円 3,000千円	
	共同研究費等	1,000千円	3,000千円	設備購入費	122,668千円 173,151千円	95,026千円 167,438千円	365,635千円 3,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			雑収入ほか						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	福岡国際医療福祉大学						学生募集停止学科数	—	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療学部											
理学療法学科	4	40	-	160	学士(理学療法)	1.11	1.05	-	平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法)	1.12	1.12	-	平成31	同上	
視能訓練学科	4	40	-	160	学士(視能訓練)	1.08	1.10	-	平成31	同上	
看護学部											
看護学科	4	100	-	400	学士(看護)	1.11	1.11	-	平成21	福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4	令和3年4月1日より、国際医療福祉大学から福岡国際医療福祉大学へ設置者変更。併せて福岡看護学部から看護学部へ学部名称変更(3)
大学全体	-	220	-	880	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医療学部 作業療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名				
専	教授(学長)	北島 栄二 (52) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 職業関連技術学 障害代償学概論 自助具・福祉機器適用論 器具・副子適用論 義肢適用論 パリアフリー論 住環境整備論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	教授(学長)	北島 栄二 (52) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 職業関連技術学 障害代償学概論 自助具・福祉機器適用論 器具・副子適用論 義肢適用論 パリアフリー論 住環境整備論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	教授(学長)	北島 栄二 (53) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 職業関連技術学 障害代償学概論 自助具・福祉機器適用論 器具・副子適用論 義肢適用論 パリアフリー論 住環境整備論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	教授(学長)	北島 栄二 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 職業関連技術学 障害代償学概論 自助具・福祉機器適用論 器具・副子適用論 義肢適用論 パリアフリー論 住環境整備論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	教授(学長)	北島 栄二 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 職業関連技術学 障害代償学概論 自助具・福祉機器適用論 器具・副子適用論 義肢適用論 パリアフリー論 住環境整備論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
専	教授	丹羽 敦 (55) <令和2年4月> 修士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 作業療法概論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション管理論 作業療法総括論 生活機能論 作業療法評価学概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	教授	丹羽 敦 (55) <令和2年4月> 修士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 作業療法概論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション管理論 作業療法総括論 生活機能論 作業療法評価学概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	教授	丹羽 敦 (56) <令和2年4月> 修士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 作業療法概論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション管理論 作業療法総括論 生活機能論 作業療法評価学概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	教授	丹羽 敦 (57) <令和2年4月> 修士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 作業療法概論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション管理論 作業療法総括論 生活機能論 作業療法評価学概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	教授	丹羽 敦 (58) <令和2年4月> 修士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 作業療法概論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション管理論 作業療法総括論 生活機能論 作業療法評価学概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
兼任	講師	丹羽 敦 (54) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	作業療法概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	丹羽 敦 (55) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	作業療法概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	丹羽 敦 (56) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	作業療法概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	丹羽 敦 (57) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	作業療法概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	丹羽 敦 (58) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	作業療法概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
専	教授	菅原 洋子 (69) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	リハビリテーション概論 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 作業学概論 作業療法応用学概論 作業療法総括論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	専	教授	菅原 洋子 (69) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	リハビリテーション概論 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 作業学概論 作業療法応用学概論 作業療法総括論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	専	教授	菅原 洋子 (70) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	リハビリテーション概論 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 作業学概論 作業療法応用学概論 作業療法総括論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	専	教授	菅原 洋子 (71) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	リハビリテーション概論 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 作業学概論 作業療法応用学概論 作業療法総括論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	専	教授	菅原 洋子 (72) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	リハビリテーション概論 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 作業学概論 作業療法応用学概論 作業療法総括論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
専	教授	小牧 元 (67) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理	専	教授	小牧 元 (67) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理	専	教授	小牧 元 (68) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理	専	教授	小牧 元 (69) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理	専	教授	小牧 元 (70) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理
専	教授	新居見 和彦 (67) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学	専	教授	新居見 和彦 (66) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学	専	教授	新居見 和彦 (67) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学	専	教授	新居見 和彦 (68) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学	専	教授	新居見 和彦 (69) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学
専	教授	尾籠 晃司 (60) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ	専	教授	尾籠 晃司 (60) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ	専	教授	尾籠 晃司 (61) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ	専	教授	尾籠 晃司 (62) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ	専	教授	尾籠 晃司 (63) <平成31年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ
専	教授	副島 修 (59) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ	専	教授	副島 修 (58) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ	専	教授	副島 修 (59) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ	専	教授	副島 修 (60) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ	専	教授	副島 修 (61) <令和2年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ

兼任 助教	谷口 隆憲 (36) ＜令和2年4月＞ 修士（保健医療学）
	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）
兼任 講師	今泉 博国 (70) ＜平成31年4月＞ 修士（経済学）
	経済学
兼任 講師	今井 克己 (60) ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
	栄養学
兼任 講師	飯田 史也 (57) ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
	教育学
兼任 講師	世波 貴子 (57) ＜平成31年4月＞ 修士（生物学）
	生物学
兼任 講師	後藤 純信 (58) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
	救急医学
兼任 講師	森本 幸生 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	生理学Ⅰ
兼任 講師	石橋 英恵 (56) ＜令和2年4月＞ Master of Occupational Therapy
	作業応用論
兼任 講師	安本 誠一 (52) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	物理学
兼任 講師	新川 寿子 (51) ＜平成31年4月＞ 修士（保健医療学）
	人間発達学
兼任 講師	桑野 博文 (49) ＜平成31年4月＞ 修士（保健福祉学）
	社会学
兼任 講師	馬原 亜矢 (50) ＜平成31年4月＞ 学士（文学）
	日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ
兼任 講師	村木 里志 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）
	人間工学

兼任 助教	谷口 隆憲 (35) ＜令和2年4月＞ 修士（保健医療学）
	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）
兼任 講師	今泉 博国 (70) ＜平成31年4月＞ 修士（経済学）
	経済学
兼任 講師	今井 克己 (61) ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
	栄養学
兼任 講師	飯田 史也 (57) ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
	教育学
兼任 講師	世波 貴子 (57) ＜平成31年4月＞ 修士（生物学）
	生物学
兼任 講師	後藤 純信 (58) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
	救急医学
兼任 講師	森本 幸生 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	生理学Ⅰ
兼任 講師	石橋 英恵 (56) ＜令和2年4月＞ Master of Occupational Therapy
	作業応用論
兼任 講師	安本 誠一 (52) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	物理学
兼任 講師	新川 寿子 (51) ＜平成31年4月＞ 修士（保健医療学）
	人間発達学
兼任 講師	桑野 博文 (49) ＜平成31年4月＞ 修士（保健福祉学）
	社会学
兼任 講師	馬原 亜矢 (50) ＜平成31年4月＞ 学士（文学）
	日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ
兼任 講師	村木 里志 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）
	人間工学

兼任 助教	谷口 隆憲 (37) ＜令和2年4月＞ 修士（保健医療学）
	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）
兼任 講師	今泉 博国 (71) ＜平成31年4月＞ 修士（経済学）
	経済学
兼任 講師	今井 克己 (62) ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
	栄養学
兼任 講師	飯田 史也 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
	教育学
兼任 講師	原北 祥悟 (30) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
	教育評価学
兼任 講師	世波 貴子 (58) ＜平成31年4月＞ 修士（生物学）
	生物学
兼任 講師	後藤 純信 (58) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
	救急医学
兼任 講師	森本 幸生 (59) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	生理学Ⅰ
兼任 講師	石橋 英恵 (56) ＜令和2年4月＞ Master of Occupational Therapy
	作業応用論
兼任 講師	安本 誠一 (53) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	物理学
兼任 講師	新川 寿子 (52) ＜平成31年4月＞ 修士（保健医療学）
	人間発達学
兼任 講師	桑野 博文 (50) ＜平成31年4月＞ 修士（保健福祉学）
	社会学
兼任 講師	馬原 亜矢 (50) ＜平成31年4月＞ 学士（文学）
	日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ
兼任 講師	村木 里志 (50) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）
	人間工学

兼任 助教	谷口 隆憲 (38) ＜令和2年4月＞ 修士（保健医療学）
	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）
兼任 講師	今泉 博国 (71) ＜平成31年4月＞ 修士（経済学）
	経済学
兼任 講師	今井 克己 (63) ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
	栄養学
兼任 講師	飯田 史也 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
	教育学
兼任 講師	原北 祥悟 (31) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
	教育評価学
兼任 講師	世波 貴子 (59) ＜平成31年4月＞ 修士（生物学）
	生物学
兼任 講師	後藤 純信 (58) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
	救急医学
兼任 講師	森本 幸生 (60) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	生理学Ⅰ
兼任 講師	石橋 英恵 (57) ＜令和2年4月＞ Master of Occupational Therapy
	作業応用論
兼任 講師	安本 誠一 (54) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	物理学
兼任 講師	新川 寿子 (53) ＜平成31年4月＞ 修士（保健医療学）
	人間発達学
兼任 講師	今井 竜也 (48) ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
	社会学
兼任 講師	澤 真澄 (41) ＜令和2年4月＞ 修士（保健学）
	日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ
兼任 講師	村木 里志 (51) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）
	人間工学

兼任 助教	谷口 隆憲 (39) ＜令和2年4月＞ 修士（保健医療学）
	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）
兼任 講師	今泉 博国 (70) ＜平成31年4月＞ 修士（経済学）
	経済学
兼任 講師	今井 克己 (64) ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
	栄養学
兼任 講師	飯田 史也 (60) ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
	教育学
兼任 講師	原北 祥悟 (3492) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
	教育評価学
兼任 講師	世波 貴子 (60) ＜平成31年4月＞ 修士（生物学）
	生物学
兼任 講師	後藤 純信 (60) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
	救急医学
兼任 講師	森本 幸生 (61) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	生理学Ⅰ
兼任 講師	石橋 英恵 (58) ＜令和2年4月＞ Master of Occupational Therapy
	作業応用論
兼任 講師	安本 誠一 (55) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
	物理学
兼任 講師	新川 寿子 (54) ＜平成31年4月＞ 修士（保健医療学）
	人間発達学
兼任 講師	今井 竜也 (47) ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
	社会学
兼任 講師	澤 真澄 (42) ＜令和2年4月＞ 修士（保健学）
	日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ
兼任 講師	村木 里志 (52) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）
	人間工学

兼任	講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)	兼任	講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)	兼任	講師	大谷 久也 (49) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)	兼任	講師	大谷 久也 (50) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)	兼任	講師	大谷 久也 (51) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)
		ケアマネジメント論			ケアマネジメント論			ケアマネジメント論			ケアマネジメント論			ケアマネジメント論
兼任	講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	伊藤 豪 (47) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	伊藤 豪 (48) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	伊藤 豪 (49) <平成31年4月> 修士(経済学)
		国際医療福祉論			国際医療福祉論			国際医療福祉論			国際医療福祉論			国際医療福祉論
兼任	講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士(人文科学)	兼任	講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士(人文科学)	兼任	講師	吉原 雅子 (47) <平成31年4月> 博士(人文科学)						
		哲学			哲学			哲学						
兼任	講師	杉原 活郎 (43) <平成31年4月> 修士(異文化コミュニケーション学)												
		アジア比較文化論												
			兼任	講師	福井 謙 (47) <平成31年4月> 修士(学術)									
					アジア比較文化論									
						兼任	講師	山本 秀也 (59) <令和2年4月> 学士(哲学)	兼任	講師	山本 秀也 (59) <令和2年4月> 学士(哲学)	兼任	講師	山本 秀也 (60) <令和2年4月> 学士(哲学)
								アジア比較文化論			アジア比較文化論			アジア比較文化論
兼任	講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	松瀬 博夫 (44) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	松瀬 博夫 (45) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	松瀬 博夫 (46) <平成31年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション医学			リハビリテーション医学			リハビリテーション医学			リハビリテーション医学			リハビリテーション医学
兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (39) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (40) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (41) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)
		ボランティア論			ボランティア論			ボランティア論			ボランティア論			ボランティア論
兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)									
		文学			文学									
						兼任	講師	安河内 敬太 (34) <令和2年4月> 修士(文学)	兼任	講師	安河内 敬太 (35) <令和2年4月> 修士(文学)	兼任	講師	安河内 敬太 (36) <令和2年4月> 修士(文学)
								文学			文学			文学
兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (29) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (30) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (31) <平成31年4月> 修士(文学)
		倫理学			倫理学			倫理学			倫理学 哲学			倫理学 哲学
兼任	講師	藪 永珍 (37) <平成31年4月> 修士(芸術工学)												
		韓国語												
			兼任	講師	黄 慶旭 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	黄 慶旭 (46) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	黄 慶旭 (47) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	黄 慶旭 (48) <平成31年4月> 修士(教育学)
					韓国語			韓国語			韓国語			韓国語
兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (58) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (59) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (60) <平成31年4月> 修士(体育学)
		健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・本務校の都合により杉原活郎講師（兼任）の担当が難しくなったため、福井讓講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により斐永珍講師（兼任）の担当が難しくなったため、黄慶旭講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和2年度】

- ・令和元年9月サミファンニファラマルズ講師（兼担）就任（教員審査省略）。
- ・黒岩俊郎教授就任辞退により、工藤祥教授に変更。令和元年12月AC教員審査済み。
- ・新科目「教育評価学」の設置に伴い、原北祥悟講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・本人の都合により馬原亜矢講師（兼任）の担当が難しくなったため、澤真澄講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本務校の都合により福井讓講師（兼任）の担当が難しくなったため、山本秀也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により漆川沙弥香講師（兼任）の担当が難しくなったため、高嶋美和講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により武藤ゆう講師（兼任）の担当が難しくなったため、安河内敬太講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和3年度】

- ・本務校の都合により財津裕一教授（兼任）の担当が一部難しくなったため、「保健医療福祉制度論」を辻雅善講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・志岐早苗助教（専任）の退職に伴い、「医学英語Ⅰ」「英語（応用）」をJenny Anne MacDonald講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・志岐早苗助教（専任）の退職に伴い、「コミュニケーション概論」を田原直美講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
- ・本人の都合により今泉博国講師（兼任）の担当が難しくなったため、吉川卓也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により桑野博文講師（兼任）の担当が難しくなったため、今井竜也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により高嶋美和講師（兼任）の担当が一部難しくなったため、「産科理学療法学」を漆川沙弥香講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
- ・本人の都合により吉原雅子講師（兼任）の担当が難しくなったため、土持貴志講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和4年度】

- ・本務校の都合により日田勝子教授（専任）が就任辞退。作業療法総括論は作業療法学科に所属する作業療法士資格を保有する専任教員全員が共同で授業を担当（全員就任時に教員審査済み）。また、小児作業療法学Ⅰ（総論）、小児作業療法学Ⅱ（各論）、小児作業療法学Ⅲ（特論）については、小児発達分野を専門とする小児科医である石井敦士教授（専任）が担当する（教員審査済み）。
- ・令和3年3月、自己都合によりサミファンニファラマルズ講師（兼担）自己都合退職に伴い、●●●●を○○○○講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済み」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
8	2	2	2	14	0	8	2	2	4	16	0
(4)	(1)	(2)	(0)	(7)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
8	2	2	4	16	0	8	2	2	4	16	0
[0]	[0]	[0]	[2]	[2]	[0]	[0]	[0]	[0]	[2]	[2]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	3 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{14} = \boxed{114.28} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{16} = \boxed{18.75} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
								必修	選択	自由			
1	教授	日田 勝子	R4.4	必修	作業療法総論	①	R4.4. 現勤務校の都合のため就任辞退（4）						
				選択	小児作業療法学Ⅰ（総論）	②							
				選択	小児作業療法学Ⅱ（各論）	②							
				必修	小児作業療法学Ⅲ（特論）	③							
		以下、余白											
合計（D）				後任補充状況の集計（E）									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
								必修	選択	自由			
		該当なし											
		以下、余白											
合計（F）				後任補充状況の集計（G）									
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{\#REF!} = \#REF! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当無し					
		以下、余白					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退した日田勝子教授が担当している科目のうち、作業療法総論は作業療法学科に所属する作業療法士資格を保有する専任教員全員で授業を担当することから、学生への履修等の影響はないと考える。また、小児作業療法学Ⅰ(総論)、小児作業療法学Ⅱ(各論)、小児作業療法学Ⅲ(特論)については、小児発達分野を専門とする小児科医が専任教員として担当する(教員審査済)。以上のことから学生の修学上の支障はないと考える。また、学生に対する必要な連絡事項等は、年次初めのオリエンテーションにおいて学科毎に周知している。(4)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 設置の趣旨・目的を十分に踏まえ、設置計画を確実に履行するための運営組織を整えて教育研究活動を開始した。4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うため、学長は、教授会を始め諸会議体を通じて教育目標、カリキュラムの体系等について合意形成を図る。	履行中
認 可 時 (平成30年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 高い教育水準を達成するため、優れた教育研究能力を有する教員を配置したことから、開設当初は1名の教員が定年規程の退職年齢を超えている。また、完成年度には5名の教員が退職年齢を超えることとなる。これらの教員は、定年延長に関する内規の適用を受けるものであるが、完成年度後に定年を迎える教員も含め、教育研究の水準を維持しつつ教員年齢のバランスに配慮し、中長期的視野に立った人事計画を策定し教員組織を整備することとしている。	履行中
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	該当なし		

設置計画履行状況 調査時 (令和4年)	該当なし		
---------------------------	------	--	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見直しなど
<p>① 修了要件単位数 124単位 必修科目116単位、選択科目8単位</p> <p>② 科目名称及び必修・選択区分の変更</p> <p>③ 新規科目の追加</p> <p>④ 入学者選抜の概要 以下の入試区分を実施。 ※()内：各学科募集人員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校推薦入試[公募制・指定校制](12名) ・一般入試[前期日程・後期日程](23名) ・大学入試センター試験利用入試(5名) ・帰国生徒特別選抜入試(若干名) ・留学生特別選抜入試(若干名) ・社会人特別選抜入試(若干名) 	<p>① 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、一部選択科目を必修科目へ変更。(2) 126単位 必修科目118単位、選択科目8単位</p> <p>② 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、「救急医学」を「選択」から「必修」に変更。授業科目の名称を「薬理学」から「基礎薬理学」に、また「選択」から「必修」に変更。(2)</p> <p>③ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、総合教育科目に「教育評価学」を追加。(2)</p> <p>④ 入学希望者の受験機会を増やすため、令和2年度入学者選抜よりA0入試（選抜方法：書類審査・小論文・個別面接）を追加。これに伴い、募集人員も一部変更。 また、文部科学省による大学入学者選抜実施要項の見直し方針に基づき、令和3年度入学者選抜より入試区分名を以下の通り変更。(2)</p> <p>※()内：各学科募集人員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校推薦入試→学校推薦型選抜[公募制・指定校制](12名) ・一般入試→一般選抜[前期日程・後期日程](20名) ・大学入試センター試験利用入試→大学入学共通テスト利用選抜(5名) ・帰国生徒特別選抜入試→帰国生徒特別選抜(若干名) ・留学生特別選抜入試→留学生特別選抜(若干名) ・社会人特別選抜入試→社会人特別選抜(若干名) ・A0入試→総合型選抜(3名)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>福岡国際医療福祉大学FD委員会を設置している。 SDについてもこの委員会での審議に基づき、取組みを展開することとしている。 FD委員会は教務委員会と連携し、教育の質の向上を目指すものである。 令和3年度からは、より効果を高めることを目的とし、FD・SD推進委員会と組織を改編した。(4)</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和元年度はFD委員会を計4回（10月・11月・12月・1月）開催した。 令和2年度はFD委員会を計9回（5月・6月・7月・9月・10月・12月・1月・2月・3月）開催した。各学科から1名ずつ選出された委員の参加状況は、毎回全員参加であった。 令和3年度はFD・SD推進委員会を計10回（5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月）開催した。(4)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学のグッドティーチング賞の要項整備と実施について ・本学のFD・SD研修会について (4) ・本年度のFD及びSD活動の基本方針について ・授業評価アンケートについて ・授業方法についての研究会について

② 実施状況

a 実施内容

オンラインを含め、年に4回のFD研修（全教員の参加を義務付ける。）開催のほか、テーマを設定した上で全教職員による研修会を開催した。

- ・第1回 第1回教員研修会「人権（差別）に関する研修」（講師：国際医療福祉大学総合教育センター 坂本真史 准教授・オンライン）
- ・第2回 第2回教員研修会「学生の特性を踏まえた効果的な実習指導に関する研修」（講師：作業療法学科 松田隆治 准教授、理学療法学科 池田拓郎 講師、視能訓練学科 松藤佳名子 准教授、言語聴覚専攻科 吉永明史 助教、看護学科 仙波洋子 准教授・対面、オンラインハイブリッド方式）
- ・第3回 第3回教員研修会「オープンな教育リソースについて」（講師：福岡国際医療福祉大学 作業療法学科 松田隆治 准教授、同 理学療法学科 山之口稔隆 講師）
- ・第4回 第4回教員研修会「グッドティーチング賞表彰式および報告会」

b 実施方法

- ・FD研修会を開催し、教育内容及び教育方法の向上の研修を行う。
- ・教務委員会で適正な成績評価基準の在り方等を検討、実施し、FD委員会で検証する。
- ・学外で開催されるFD研修会に参加した教員の知見を教授会、教務委員会等で報告し情報共有を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【平成30年度（設置認可前）】

平成30年8月15日・16日（設置認可前）に就任予定の教職員を集め、以下の内容で合宿研修を実施した。

- ・福岡国際医療福祉大学の設置構想について
- ・各学科の教育内容について
- ・リハビリテーションの現況について
- ・コンプライアンス（セクハラ、パワハラ、アカハラ等）について

【令和元年度（開学初年度）】

- ・後期試験の実施にあたり国家試験形式での出題の留意点や、試験作成のポイントに関する説明会を実施した。（参加状況：26名/28名 出席率：92.8%）
- ・ハラスメント防止委員会による「ハラスメント防止委員会」を開催した。（参加状況：22名/28名 出席率：78.5%）

【令和2年度（開学2年目）】

- ・第1回（令和2年7月22日） 新入生入学直後のUPI検査の結果を基に、新入生のメンタルヘルス状況について報告があり、また、精神的に問題を抱えている学生へのケアやフォローについて説明会を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）
- ・第2回（令和2年9月23日） 20年以上にわたる評価の手法や方法を評価方法を紹介し、それぞれの有効性や活用方法について講演を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）
- ・第3回（令和2年12月23日） スタンフォード大学で臨床・教育に従事していた氏の実体験から、予習中心のアクティブラーニングの実践と重要性、効果について講演を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%、ZOOM1名、録画視聴10名含む）
- ・第4回（令和3年3月24日） グッドティーチング賞選考発表と表彰式、および選考された3名の教員によるミニ講義を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）

【令和3年度（開学3年目）】

- ・第1回（令和3年8月24日） 薬剤師であり弁護士である国際医療福祉大学坂本真史准教授より、人権課題について、日本国憲法やイギリスの人権に関する歴史的経緯などを踏まえ講演があった。（参加状況：70名/73名、出席率95.9%）
- ・第2回（令和3年9月14日） 理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科、看護学科、言語聴覚専攻科からそれぞれ1名ずつの専任教員より、各学科固有の事情と実習の方法に関連し、学生の特性を踏まえた効果的な実習指導に関する報告と質疑が行われた。（参加状況：71名/73名、出席率97.3%）
- ・第3回（令和4年2月17日） OER（オープン教育資源）の具体例の提示や具体的な教育や研究への活用例について、2人の演者から具体的な例や活用する上で有効なツールの紹介などがあった。（参加状況：69名/73名、出席率94.5%）
- ・第4回（令和4年3月23日） グッドティーチング賞選考発表と表彰式、および選考された3名の教員によるミニ講義を実施した。（参加状況：51名/73名、執筆時点の出席率69.9%、当日欠席者についてはGoogle Classroomによる聴取集計中）

以上（4）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修を通じて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期の終盤にすべての授業科目で学生による評価アンケートを実施する。
アンケートは事務部学務課において集計し、学長へ報告する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

事務部学務課において集計したアンケート結果は、FD委員会で分析した上、各教員へ返却する。
学生には、結果全体の報告書を学生ポータルサイトに掲載する。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>本学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健全な人も、互いを認め合っ て暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すとともに、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深 い教養および総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を養成し、 地域医療はもとより国際社会にも貢献し得る有能な人材を養成することを目的に設置された。</p> <p>開学以降、医療者としての素養を育むための質の高い授業が行われており、総合教育科目の「医療とICT」「社会保 障制度論」「医学英語Ⅰ」などにおいて、科学的・論理的思考力を身に付け、国際化に対応できる視点を養う学修をして いる。専門基礎科目の「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「臨床医学概論」「リハビリテーション概論」などにおいて保健医療福 祉とリハビリテーションの理念について学修し、専門科目の「理学療法概論」「バイオメカニクス」などにおいて、基礎 理学療法学を学修している。なお、後期には、建学の精神に沿う「生命倫理」が開講される。</p> <p>設置の趣旨・目的を達成するための、幅広い教養、豊かな人間性、保健医療に関する基礎知識の獲得ができていくもの と捉えている。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期 ・設置初年度（2019年度）及び翌年度（2020年度）の2年間の教育研究活動を総括し、2021年6月下旬公表予定。</p> <p>b 公表方法 ・大学ホームページ上に公開予定</p> <p>③ 認証評価を受ける計画 ・完成年度（2022年度）後、適切な時期に受審の予定。</p>
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を
含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書につ
いて記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ <input checked="" type="radio"/> 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>
--

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F140310110918

注3

設置年度 平成 31年度

計画の区分： 大学の設置

注1

認可

注2

福岡国際医療福祉大学 医療学部 視能訓練学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人高木学園

令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 主任 ミズノ マサミチ
水野 真修

電話番号 092-832-1200

（夜間） 092-832-1200

e-mail fiuhw-secchi
@takagigakuen.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

医療学部

＜視能訓練学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	20
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	22
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高木学園

(2) 大学名

福岡国際医療福祉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒814-0001

福岡県福岡市早良区百道浜三丁目6番40号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成11年2月)		
学長	(イマイズミ ツトム) 今泉 勉 (平成31年4月)	(ハラ ヒデオ) 原 英夫 (令和4年4月)	今泉前学長の任期満了による学長交替(4)
学部長			
学科長等	(ヨシトミ タケシ) 吉富 健志 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医療学部 視能訓練学科 学士（視能訓練学）	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）	4 年	40 人	- 人	160 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	40人	-人	1.08 倍	-	
	()	()	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]	[若干名]	[]			
志願者数	()	()	65	-	101	-	140	-	84	-	84	-			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
受験者数	()	()	64	-	101	-	139	-	84	-	84	-			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
合格者数	()	()	45	-	61	-	58	-	56	-	56	-			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
B 入学者数	()	()	40	-	46	-	44	-	44	-	44	-			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
入学定員超過率 B/A			1.00		1.15		1.10		1.10		1.10				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください）。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次			40 [-] (-)	- [-] (-)	46 [-] (-)	- [-] (-)	44 [-] (-)	- [-] (-)	44 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次					39 [-] (-)	- [-] (-)	46 [-] (-)	- [-] (-)	45 [-] (4)	- [-] (-)	
3年次							39 [-] (-)	- [-] (-)	42 [-] (3)	- [-] (-)	
4年次									35 [-] (-)	- [-] (-)	
計			40 [-] (-)		85 [-] (-)		129 [-] (-)		166 [-] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入してください。**該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。**
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	40 人	1 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	1 人	人	除籍(1名)
令和2年度	85 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	人	該当なし
			令和2年度	0 人	人	該当なし
令和3年度	129 人	7 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	人	該当なし
			令和2年度	4 人	人	病氣療養(1名)、除籍(1名)、進路変更(2名)
			令和3年度	3 人	人	進路変更(2名)、経済的理由(1名)
令和4年度	166 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	人	該当なし
			令和2年度	0 人	人	該当なし
			令和3年度	0 人	人	該当なし
			令和4年度	0 人	人	該当なし
合計		8 人		8 人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{40} = \boxed{2.5} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{85} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{7}{129} = \boxed{5.42} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{166} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療学部 視能訓練学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2			1						兼1
	哲学	1,2,3,4前	1									兼1
	倫理学	1,2,3,4後	1									兼1
	文学	1,2,3,4前	1									兼1
	教育学	1,2,3,4後	2									兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4後	2						1			
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前・後	2			5	3	1	3			兼26
	アジア比較文化論	1,2,3,4前	1							1		兼1
	法学	1,2,3,4前	1								1	
	経済学	1,2,3,4後	1									兼1
	社会学	1,2,3,4前	1									兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後	2									兼1
	社会保障制度論	1前	2			1						
	ボランティア論	1,2,3,4後	1									兼1
	生物学	1,2,3,4後	2									兼1
	物理学	1,2,3,4前	2									兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2									兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1,2,3,4前	2									兼1
	健康科学理論	1,2,3,4前	1									兼1
	健康スポーツ実践	1,2,3,4後	1									兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1						1			
	医学英語Ⅱ	1後	1						1			
英語(基礎)	1,2,3,4前	1						1				
英語(応用)	1,2,3,4後	1						1				
英会話	1,2,3,4後	1						1				
韓国語*	1後	2									兼1	
中国語*	1後	2						1				
小計(31科目)	-	16	29	-	5	3	1	3	0		兼40	
(留學生用)												
日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1									兼1	
日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1									兼1	
日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1									兼1	
日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1									兼1	
小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0		兼1	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2			1						
	哲学	1,2,3,4前	1									兼1
	倫理学	1,2,3,4後	1									兼1
	文学	1,2,3,4前	1									兼1
	教育学	1,2,3,4後	2									兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4後	2							1		
	教育評価学	1,2,3,4後	2									兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前・後	2			5	3	1	3			兼26
	アジア比較文化論	1,2,3,4前	1									兼1
	法学	1,2,3,4前	1								1	
	経済学	1,2,3,4後	1									兼1
	社会学	1,2,3,4前	1									兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後	2									兼1
	社会保障制度論	1前	2			1						
	ボランティア論	1,2,3,4後	1									兼1
	生物学	1,2,3,4後	2									兼1
	物理学	1,2,3,4前	2									兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2									兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1,2,3,4前	2									兼1
	健康科学理論	1,2,3,4前	1									兼1
	健康スポーツ実践	1,2,3,4後	1									兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1								2	
医学英語Ⅱ	1後	1								2		
英語(基礎)	1,2,3,4前	1								2		
英語(応用)	1,2,3,4後	1								2		
英会話	1,2,3,4後	1								2		
韓国語*	1通	2									兼1	
中国語*	1通	2							1			
小計(32科目)	-	16	31	-	5	3	1	4	0		兼41	
(留學生用)												
日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1									兼1	
日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1									兼1	
日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1									兼1	
日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1									兼1	
小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0		兼1	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学	1前	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1			1						
	生理学実習	1後	1			1					兼2	
	病理学	1後	1								兼1	
	臨床医学概論	1前	2								兼1	
	公衆衛生学	1,2,3後		2		1						
	リハビリテーション医学	1後		1							兼1	
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1	
	内科学Ⅱ	2後	1								兼1	
	神経学Ⅰ	2前	1			1						
	神経学Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1	
	精神医学Ⅱ	2,3後		1							兼1	
	小児科学	2前	1								兼1	
	老年学	2後	1			1						
	視機能概論	1前	1				1					
	視器解剖病態学Ⅰ	1後	1			1						
	視器解剖病態学Ⅱ	3前	1			1						
	生理光学Ⅰ	1前	1							1		兼1
	生理光学Ⅱ	2前	1									兼1
	生理光学Ⅲ	2後	1									
	視覚生理学Ⅰ	1後	1			1						
	視覚生理学Ⅱ	2前	1								兼1	
	人間発達学	1前	2								兼1	
	臨床心理学概論	2前	2			1						
	救急医学	2,3前		1							兼1	
	薬理学	1,2,3後		1		1						
	栄養学	1,2,3後		1							兼1	
	カウンセリング論	1,2,3前		1		1						
	リスクマネジメント論	3前		2							兼1	
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1							兼1	
	リハビリテーション概論	1前	2								兼1	
	保健医療福祉制度論	1,2,3前		2		1						
	関連職種連携論	2前	2			1					兼2	
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1		兼8	
	保育	1後	2								兼1	
	コミュニケーション技術Ⅰ（手話）	1前	1								兼1	
	コミュニケーション技術Ⅱ（点字）	2後	1								兼1	
小計（39科目）	-	35	13	0	5	2	1	1	0	兼27		

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学	1前	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1			1						
	生理学実習	1後	1			1					兼2	
	病理学	1後	1								兼1	
	臨床医学概論	1前後	2								兼1	
	公衆衛生学	1,2,3後		2		1						
	リハビリテーション医学	1後		1							兼1	
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1	
	内科学Ⅱ	2後	1								兼1	
	神経学Ⅰ	2前	1			1						
	神経学Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1	
	精神医学Ⅱ	2,3後		1							兼1	
	小児科学	2前	1								兼1	
	老年学	2後	1			1						
	視機能概論	1前	1				1					
	視器解剖病態学Ⅰ	1後	1			1						
	視器解剖病態学Ⅱ	3前	1			1						
	生理光学Ⅰ	1前	1							1		兼1
	生理光学Ⅱ	2前	1									兼1
	生理光学Ⅲ	2後	1									
	視覚生理学Ⅰ	1後	1			1						
	視覚生理学Ⅱ	2前	1								兼1	
	人間発達学	1前	2								兼1	
	臨床心理学概論	2前	2			1						
	救急医学	2,3前		1							兼1	
	基礎薬理学	1,2,3後		1		1						
	栄養学	1,2,3後		1							兼1	
	カウンセリング論	1,2,3前		1		1						
	リスクマネジメント論	3前		2							兼1	
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1							兼1	
	リハビリテーション概論	1前	2								兼1	
	保健医療福祉制度論	1,2,3前後		2		1						
	関連職種連携論	2後	2			1					兼2	
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1		兼8	
	保育	1前後	2								兼1	
	コミュニケーション技術Ⅰ（手話）	1前	1								兼1	
	コミュニケーション技術Ⅱ（点字）	2後	1								兼1	
小計（39科目）	-	35	13	0	5	2	1	1	0	兼27		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目(専門科目)	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2									兼1
	視能矯正学総括論Ⅰ	3後	1				1					
	視能矯正学総括論Ⅱ	4後	1						1			
	視覚情報処理論Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅲ	3後	1	1								兼1
	視覚と注意	3後	1	1								兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1					1			
	視能検査学入門	1前		1					1			
	視能検査学基礎	1後	1					1				
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3前	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1					1			
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1			1						
	視能障害学Ⅳ	3前	1			1						
	視能障害学評価学	3前	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後	1	1		1						
	視覚と高次脳	3後	1									兼1
	視能障害学実践演習	3後	1			2	1	1	2			
	視能障害学特論	3前		1				1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1			1						
	弱視斜視論Ⅲ	3前	1									兼1
弱視斜視論Ⅳ	3後	1			1							
視能訓練学Ⅰ	2後	1				1	1	2				
視能訓練学Ⅱ	2後	1			2	1	1	2				
視能訓練学Ⅲ	3前	1			1							
ロービジョン学	3前	1						1				
視覚とヴァーチャルリアリティ	3後	1	1								兼1	
視能訓練学総合演習	4前	1			2	1	1	2				
視能訓練学特論	3後	1	1		1							
臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2			
臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2			
小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2	兼13		
合計(117科目)	-	111	51		5	3	1	3	2	兼65		
合計(121科目)(留学生)	-	115	51		5	3	1	3	2	兼66		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修95単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:60単位)。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。(履修課目の登録の上限49単位(年間))												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目(専門科目)	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2									兼1
	視能矯正学総括論Ⅰ	3後	1					1				
	視能矯正学総括論Ⅱ	4後	1						1			
	視覚情報処理論Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅲ	3後	1	1								兼1
	視覚と注意	3後	1	1								兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1					1			
	視能検査学入門	1前		1					1			
	視能検査学基礎	1後	1									
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3後	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1					1			
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1			1						
	視能障害学Ⅳ	3前後	1			1						
	視能障害学評価学	3後	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後	1	1		1						
	視覚と高次脳	3後	1									兼1
	視能障害学実践演習	3後	1			2	1	1	2			
	視能障害学特論	3後	1					1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1			1						
	弱視斜視論Ⅲ	3後	1									兼1
弱視斜視論Ⅳ	3前	1			1							
視能訓練学Ⅰ	2後	1				1	1	2				
視能訓練学Ⅱ	2後	1			2	1	1	2				
視能訓練学Ⅲ	3前	1			1							
ロービジョン学	3通	1						1				
視覚とヴァーチャルリアリティ	3後	1	1								兼1	
視能訓練学総合演習	4前	1			2	1	1	2				
視能訓練学特論	3後	1	1		1							
臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2			
臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2			
小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2	兼13		
合計(118科目)	-	111	53		5	3	1	4	2	兼66		
合計(122科目)(留学生)	-	115	53		5	3	1	4	2	兼67		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修95単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:60単位)。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。(履修課目の登録の上限49単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学	1前	1			1						兼1
	生理学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理学Ⅱ	1後	1			1						兼2
	生理学実習	1後	1			1						兼1
	病理学	1後	1									兼1
	臨床医学概論	1前	2									兼1
	公衆衛生学	1,2,3後	2			1						
	リハビリテーション医学	1後	1									兼1
	内科学Ⅰ	2前	1									兼1
	内科学Ⅱ	2後	1									兼1
	神経学Ⅰ	2前	1			1						
	神経学Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1									兼1
	精神医学Ⅱ	2,3後	1									兼1
	小児科学	2前	1									兼1
	老年学	2後	1			1						
	視機能概論	1前	1				1					
	視器解剖病態学Ⅰ	1後	1			1						
	視器解剖病態学Ⅱ	3前	1			1						
	生理光学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理光学Ⅱ	2前	1									兼1
	生理光学Ⅲ	2後	1						1			
	視覚生理学Ⅰ	1後	1			1						
	視覚生理学Ⅱ	2前	1									兼1
	人間発達学	1前	2									兼1
	臨床心理学概論	2前	2			1						
	救急医学	2,3前	1									兼1
	薬理学	1,2,3後	1			1						
	栄養学	1,2,3後	1									兼1
	カウンセリング論	1,2,3前	1			1						
	リスクマネジメント論	3前	2									兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3前	1									兼1
	リハビリテーション概論	1前	2									兼1
保健医療福祉制度論	1,2,3前	2			1							
関連職種連携論	2前	2			1						兼2	
関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1			兼8	
保育	1後	2									兼1	
コミュニケーション技術Ⅰ(手話)	1前	1									兼1	
コミュニケーション技術Ⅱ(点字)	2後	1									兼1	
小計(39科目)	-	35	13	0	5	2	1	1	0		兼27	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学	1前	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理学Ⅱ	1後	1			1						
	生理学実習	1後	1			1						兼2
	病理学	1後	1									兼1
	臨床医学概論	1前	2									兼1
	公衆衛生学	1,2,3後	2			1						
	リハビリテーション医学	1後	1									兼1
	内科学Ⅰ	2前	1									兼1
	内科学Ⅱ	2後	1									兼1
	神経学Ⅰ	2前	1						1			
	神経学Ⅱ	2後	1						1			
	精神医学Ⅰ	2前	1									兼1
	精神医学Ⅱ	2,3後	1									兼1
	小児科学	2前	1									兼1
	老年学	2後	1				1					
	視機能概論	1前	1					1				
	視器解剖病態学Ⅰ	1後	1			1						
	視器解剖病態学Ⅱ	3前	1			1						
	生理光学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理光学Ⅱ	2前	1									兼1
	生理光学Ⅲ	2後	1							1		
	視覚生理学Ⅰ	1後	1				1					
	視覚生理学Ⅱ	2前	1									兼1
	人間発達学	1前	2									兼1
	臨床心理学概論	2前	2			1						
	救急医学	2,3前	1									兼1
	薬理学	1,2,3後	1			1						
	栄養学	1,2,3後	1									兼1
	カウンセリング論	1,2,3前	1			1						
	リスクマネジメント論	3前	2									兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3前	1									兼1
	リハビリテーション概論	1前	2									兼1
保健医療福祉制度論	1,2,3前	2			1							
関連職種連携論	2前	2			1						兼2	
関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1			兼8	
保育	1後	2									兼1	
コミュニケーション技術Ⅰ(手話)	1前	1									兼1	
コミュニケーション技術Ⅱ(点字)	2後	1									兼1	
小計(39科目)	-	35	13	0	5	2	1	1	0		兼27	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門科目）	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2									兼1
	視能矯正学総括論Ⅰ	3後	1				1					
	視能矯正学総括論Ⅱ	4後	1						1			
	視覚情報処理論Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅲ	3後	1	1								兼1
	視覚と注意	3後	1	1								兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1					1			
	視能検査学入門	1前		1					1			
	視能検査学基礎	1後	1					1				
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3前	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1					1			
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1				1					
	視能障害学Ⅳ	3前	1				1					
	視能障害学評価学	3前	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後	1			1						
	視覚と高次脳	3後	1									兼1
	視能障害学実践演習	3後	1			2	1	1	2			
	視能障害学特論	3前		1				1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1				1					
	弱視斜視論Ⅲ	3前	1									兼1
	弱視斜視論Ⅳ	3後	1				1					
	視能訓練学Ⅰ	2後	1					1		2		
	視能訓練学Ⅱ	2後	1				2	1	1	2		
	視能訓練学Ⅲ	3前	1				1					
	ロービジョン学	3前	1						1			
	視覚とヴァーチャルリアリティ	3後		1								兼1
	視能訓練学総合演習	4前	1				2	1	1	2		
	視能訓練学特論	3後		1				1				
	臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2		
	臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2		
小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2	兼13		
合計(117科目)	-	111	51		5	3	1	4	2	兼65		
合計(121科目)(留学生)	-	115	51		5	3	1	4	2	兼66		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目：必修16単位（人間系：2単位、社会系：5単位、自然・情報系：6単位、総合系：1単位、外国語系：2単位）。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択（「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。）。留学生は、必修20単位（人間系：2単位、社会系：5単位、自然・情報系：6単位、総合系：1単位、外国語系：2単位、日本語科目：4単位）。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目：必修95単位（専門基礎科目：35単位、専門科目：60単位）。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。（履修課目の登録の上限49単位(年間)）												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門科目）	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2選									兼1
	視能矯正学総括論Ⅰ	3後	1					1				
	視能矯正学総括論Ⅱ	4後	1						1			
	視覚情報処理論Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅲ	3後	1	1								兼1
	視覚と注意	3後	1	1								兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1					1			
	視能検査学入門	1前		1					1			
	視能検査学基礎	1後	1					1				
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3前	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1					1			
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1				1					
	視能障害学Ⅳ	3前	1				1					
	視能障害学評価学	3前	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後	1			1						
	視覚と高次脳	3後	1						1			兼1
	視能障害学実践演習	3後	1			2	1	1	2			
	視能障害学特論	3前		1				1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1				1					
	弱視斜視論Ⅲ	3前	1									兼1
	弱視斜視論Ⅳ	3後	1				1					
	視能訓練学Ⅰ	2後	1					1		1	2	
	視能訓練学Ⅱ	2後	1				2	1	1	2		
	視能訓練学Ⅲ	3前	1				1					
	ロービジョン学	3前	1						1			
	視覚とヴァーチャルリアリティ	3後		1								兼1
	視能訓練学総合演習	4前	1				2	1	1	2		
	視能訓練学特論	3後		1				1				
	臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2		
	臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2		
小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2	兼13		
合計(119科目)	-	111	53		5	3	1	4	2	兼66		
合計(122科目)(留学生)	-	115	53		5	3	1	4	2	兼67		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目：必修16単位（人間系：2単位、社会系：5単位、自然・情報系：6単位、総合系：1単位、外国語系：2単位）。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択（「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。）。留学生は、必修20単位（人間系：2単位、社会系：5単位、自然・情報系：6単位、総合系：1単位、外国語系：2単位、日本語科目：4単位）。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目：必修95単位（専門基礎科目：35単位、専門科目：60単位）。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。（履修課目の登録の上限49単位(年間)）												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2			1						
	哲学	1,2,3,4前		1								兼1
	倫理学	1,2,3,4後		1								兼1
	文学	1,2,3,4前		1								兼1
	教育学	1,2,3,4後		2								兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4前		2					1			
	教育評価学	1,2,3,4後		2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前・後	2			5	3	1	3			兼26
	アジア比較文化論	1,2,3,4前		1								兼1
	法学	1,2,3,4前		1					1			
	経済学	1,2,3,4後		1								兼1
	社会学	1,2,3,4前		1								兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後		2								兼1
	社会保障制度論	1前	2			1						
	ボランティア論	1,2,3,4後		1								兼1
	生物学	1,2,3,4後		2								兼1
	物理学	1,2,3,4前		2								兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2									兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1,2,3,4前		2								兼1
	健康科学理論	1,2,3,4前		1								兼1
	健康スポーツ実践	1,2,3,4後		1								兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1						2			
	医学英語Ⅱ	1後	1						2			
	英語(基礎)	1,2,3,4前		1					2			
	英語(応用)	1,2,3,4後		1					2			
	英会話	1,2,3,4後		1					2			
	韓国語*	1通	2									兼1
	中国語*	1通	2						1			
小計(32科目)	-	16	31	-	5	3	1	4	0		兼41	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1									兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1									兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1									兼1
	小計(4科目)	-	4	-	-	0	0	0	0	0		兼1

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 (専門基礎科目)	解剖学	1前	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理学Ⅱ	1後	1			1						
	生理学実習	1後	1			1						兼2
	病理学	1後	1									兼1
	臨床医学概論	1前	2									兼1
	公衆衛生学	1,2,3後		2		1						
	リハビリテーション医学	1後		1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1									兼1
	内科学Ⅱ	2後	1									兼1
	神経学Ⅰ	2前	1			1						
	神経学Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1									兼1
	精神医学Ⅱ	2,3後		1								兼1
	小児科学	2前	1									兼1
	老年学	2後	1			1						
	視機能概論	1前	1				1					
	視器解剖病態学Ⅰ	1後	1			1						
	視器解剖病態学Ⅱ	3前	1			1						
	生理光学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理光学Ⅱ	2前	1									兼1
	生理光学Ⅲ	2後	1						1			
	視覚生理学Ⅰ	1後	1			1						
	視覚生理学Ⅱ	2前	1									兼1
	人間発達学	1前	2									兼1
	臨床心理学概論	2前	2			1						
	救急医学	2,3前		1								兼1
	基礎薬理学	1,2,3後		1		1						
	栄養学	1,2,3後		1								兼1
	カウンセリング論	1,2,3前		1		1						
	リスクマネジメント論	3前		2								兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1								兼1
	リハビリテーション概論	1前	2									兼1
保健医療福祉制度論	1,2,3前		2		1							
関連職種連携論	2後	2			1						兼2	
関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1			兼8	
保育	1後	2									兼1	
コミュニケーション技術Ⅰ(手話)	1前	1									兼1	
コミュニケーション技術Ⅱ(点字)	2後	1									兼1	
小計(39科目)	-		35	13	0	5	2	1	1	0	兼27	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門科目）	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2									兼1
	視能矯正学総括論Ⅰ	3後	1				1					
	視能矯正学総括論Ⅱ	4後	1							1		
	視覚情報処理論Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理論Ⅲ	3後		1								兼1
	視覚と注意	3後		1								兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1						1		
	視能検査学入門	1前		1						1		
	視能検査学基礎	1後	1						1			
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3後	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1						1		
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1				1					
	視能障害学Ⅳ	3前	1				1					
	視能障害学評価学	3後	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後		1		1						
	視覚と高次脳	3後	1									兼1
	視能障害学実践演習	3後	1				2	1	1	2		
	視能障害学特論	3後		1				1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1				1					
	弱視斜視論Ⅲ	3後	1									兼1
	弱視斜視論Ⅳ	3前	1				1					
	視能訓練学Ⅰ	2後	1					1			2	
	視能訓練学Ⅱ	2後	1				2	1	1	2		
	視能訓練学Ⅲ	3前	1				1					
	ロービジョン学	3通	1							1		
	視覚とヴァーチャルリアリ	3後		1								兼1
	視能訓練学総合演習	4前	1				2	1	1	2		
	視能訓練学特論	3後		1			1					
	臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2		
	臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2		
小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2		兼13	
合計(118科目)	-	111	53		5	3	1	4	2		兼66	
合計(122科目)(留学生)	-	115	53		5	3	1	4	2		兼67	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修95単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:60単位)。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。(履修課目の登録の上限49単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 教育効果を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「文学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「アジア比較文化論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果を考慮し、「英語(基礎)」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。

【令和2年度】

- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4後」から「1,2,3,4前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「韓国語」の配当年次を「1後」から「1通」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「中国語」の配当年次を「1後」から「1通」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「ケアマネジメント論」を「1,2,3前」から「1,2,3後」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「コミュニケーション技術Ⅰ(手話)」を「1前」から「1通」に変更。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、本年度に限り、「視能矯正学Ⅱ」を「2前」から「2通」に変更。
- ・ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、「教育評価学」を新設。
- ・ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、授業科目の名称を「薬理学」から「基礎薬理学」に変更。

【令和3年度】

- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「コミュニケーション概論」の配当年次を「1,2,3,4後」から「1,2,3,4前」に変更。
- ・ 昨年度、新型コロナウイルス感染症対策で移動した、「ケアマネジメント論」を「1,2,3後」から「1,2,3前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「保健医療福祉制度論」の配当年次を「1,2,3前」から「1,2,3後」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「関連職種連携論」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・ 昨年度、新型コロナウイルス感染症対策で移動した、「コミュニケーション技術Ⅰ(手話)」を「1通」から「1前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「視能矯正学Ⅱ」を「2通」から「2前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「視覚と画像解析」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「視能障害評価学」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。
- ・ 教育効果(履修機会の拡充)を考慮し、「視能障害学特論」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「弱視斜視論Ⅲ」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「弱視斜視論Ⅳ」の配当年次を「3後」から「3前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「ロービジョン学」の配当年次を「3前」から「3通」に変更。

【令和4年度】

- ・ 本年度前期の時間割と学生の負担軽減を考慮し、「コミュニケーション概論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「保育」の配当年次を「3後」から「3前」に変更。
- ・ 教育効果(学生の負担軽減)を考慮し、「臨床医学概論」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。
- ・ 専任教員の退職に伴う科目担当者の変更により、「視能障害学Ⅳ」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
77 科目	40 科目	0 科目	117 科目	77 科目 [2]	41 科目 [Δ1]	0 科目 [0]	118 科目 [1]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当事項なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{117} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	R3年度より国際医療福祉大学福岡看護学部を設置者変更したことに より校地等面積増(3) その他 福祉施設相当分532㎡ 土地面積11,558㎡を建 物延べ床面積で按分			
	校舎敷地	21,415.83 ㎡ 10,280.29-㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,415.83 ㎡ 10,280.29-㎡				
	運動場用地	745.71㎡	0 ㎡	0 ㎡	745.71㎡				
	小 計	22,161.54 ㎡ 11,026.00-㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,161.54 ㎡ 11,026.00-㎡				
	そ の 他	532.00㎡	0 ㎡	0 ㎡	532.00㎡				
	合 計	22,693.54 ㎡ 11,558.00-㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,693.54 ㎡ 11,558.00-㎡				
(2) 校 舎	専 用	21,130.55 ㎡ 10,943.35-㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,130.55 ㎡ 10,943.35-㎡	R3年度より国際医療福祉大学福岡看護学部を設置者変更したことに より校地等面積増(3)			
	(10,943.35 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(10,943.35 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	3学科で使用 語学学習施設は情報処理学習施設を兼ねる。 R1、R2記載漏れ(3)			
	19室	1室	26室	1室 (補助職員 1人)	(1)室 (補助職員(1)人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			令和2年度に個室を増 やす改装を実施(3)			
	医療学部		28 3 個室 2-4、共同 4 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書、雑誌の冊数の計 画時との差異は、図書 は廃刊と代替書籍の確 保から入荷と決済時期 の差異によるものであり、 学術雑誌は教育研究 の質的向上のため扱い 種を増やしたため。 また、視聴覚資料は教 育的效果を高めるため 点数を増やした(3)	
		冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点		
	医療学部	16,238 [796] -(793) -(16,069) -(15,043) -(793)	196 [27] -(136 [17]) -(104 [11]) -(136 [17]) -(104 [11])	16,593 [7061] 8,350 [—] (8,350 [—])	1,166 (1,164) -(1,145) (1,164) -(1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)		
	計	16,238 [796] -(793) -(16,069) -(15,043) -(793)	196 [27] -(136 [17]) -(104 [11]) -(136 [17]) -(104 [11])	16,593 [7061] 8,350 [—] (8,350 [—])	1,166 (1,164) -(1,145) (1,164) -(1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)		
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
	297.71㎡		114席	17,000冊					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			認可時及びR2までのAC 記載漏れ(3)			
	1,245.37㎡		テニスコート兼フットサルコート 1面 (745.00㎡)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費と設備購入 費は令和2年度末まで に整備済(3)
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	18,463千円 18,963千円	5,784千円 6,117千円	31,198千円 3,000千円	
	共同研究費等	1,000千円	3,000千円	設備購入費	122,668千円 173,151千円	95,026千円 167,438千円	365,635千円 3,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入ほか							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	福岡国際医療福祉大学						学生募集停止学科数	—	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療学部											
理学療法学科	4	40	-	160	学士(理学療法)	1.11	1.05	-	平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法)	1.12	1.12	-	平成31	同上	
視能訓練学科	4	40	-	160	学士(視能訓練)	1.08	1.10	-	平成31	同上	
看護学部											
看護学科	4	100	-	400	学士(看護)	1.11	1.11	-	平成21	福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4	令和3年4月1日より、国際医療福祉大学から福岡国際医療福祉大学へ設置者変更。併せて福岡看護学部から看護学部へ学部名称変更(3)
大学全体	-	220	-	880	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

兼任	講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士 (経済学)
		経済学
兼任	講師	河崎 栄二 (63) <令和2年4月> 商学士
		生理光学Ⅱ 視覚生理学Ⅱ
兼任	講師	今井 克己 (60) <平成31年4月> 博士 (保健学)
		栄養学
兼任	講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士 (教育学)
		教育学
兼任	講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士 (生物学)
		生物学
兼任	講師	後藤 純信 (58) <令和2年4月> 博士 (医学)
		救急医学
兼任	講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士 (理学)
		生理学Ⅰ
兼任	講師	大津 泰子 (55) <平成31年4月> 修士 (教育学)
		保育
兼任	講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士 (理学)
		物理学
兼任	講師	広瀬 美千代 (53) <令和2年4月> 短期大学士
		コミュニケーション技術Ⅱ (点 字)
兼任	講師	尾崎 弘明 (53) <平成31年4月> 博士 (医学)
		視能障害学Ⅰ
兼任	講師	新川 寿子 (51) <平成31年4月> 修士 (保健医療学)
		人間発達学
兼任	講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士 (保健福祉学)
		社会学
兼任	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士 (文学)
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ

兼任	講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士 (経済学)
		経済学
兼任	講師	河崎 栄二 (63) <令和2年4月> 商学士
		生理光学Ⅱ 視覚生理学Ⅱ
兼任	講師	今井 克己 (61) <平成31年4月> 博士 (保健学)
		栄養学
兼任	講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士 (教育学)
		教育学
兼任	講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士 (生物学)
		生物学
兼任	講師	後藤 純信 (57) <令和2年4月> 博士 (医学)
		救急医学
兼任	講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士 (理学)
		生理学Ⅰ
兼任	講師	大津 泰子 (55) <平成31年4月> 修士 (教育学)
		保育
兼任	講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士 (理学)
		物理学
兼任	講師	広瀬 美千代 (53) <令和2年4月> 短期大学士
		コミュニケーション技術Ⅱ (点 字)
兼任	講師	尾崎 弘明 (53) <平成31年4月> 博士 (医学)
		視能障害学Ⅰ
兼任	講師	新川 寿子 (51) <平成31年4月> 修士 (保健医療学)
		人間発達学
兼任	講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士 (保健福祉学)
		社会学
兼任	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士 (文学)
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ

兼任	講師	今泉 博国 (71) <平成31年4月> 修士 (経済学)
		経済学
兼任	講師	河崎 栄二 (64) <令和2年4月> 商学士
		生理光学Ⅱ 視覚生理学Ⅱ
兼任	講師	今井 克己 (62) <平成31年4月> 博士 (保健学)
		栄養学
兼任	講師	飯田 史也 (58) <平成31年4月> 博士 (教育学)
		教育学
兼任	講師	原北 祥悟 (30) <令和2年4月> 博士 (教育学)
		教育評価学
兼任	講師	世波 貴子 (58) <平成31年4月> 修士 (生物学)
		生物学
兼任	講師	後藤 純信 (58) <令和2年4月> 博士 (医学)
		救急医学
兼任	講師	森本 幸生 (59) <平成31年4月> 博士 (理学)
		生理学Ⅰ
兼任	講師	大津 泰子 (56) <平成31年4月> 修士 (教育学)
		保育
兼任	講師	安本 誠一 (53) <平成31年4月> 博士 (理学)
		物理学
兼任	講師	広瀬 美千代 (53) <令和2年4月> 短期大学士
		コミュニケーション技術Ⅱ (点 字)
兼任	講師	尾崎 弘明 (54) <平成31年4月> 博士 (医学)
		視能障害学Ⅰ
兼任	講師	新川 寿子 (52) <平成31年4月> 修士 (保健医療学)
		人間発達学
兼任	講師	桑野 博文 (50) <平成31年4月> 修士 (保健福祉学)
		社会学
兼任	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士 (文学)
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ

兼任	講師	吉川 卓也 (62) <令和3年4月> 修士 (経済学)
		経済学
兼任	講師	河崎 栄二 (65) <令和2年4月> 商学士
		生理光学Ⅱ
兼任	講師	今井 克己 (60) <平成31年4月> 博士 (保健学)
		栄養学
兼任	講師	飯田 史也 (59) <平成31年4月> 博士 (教育学)
		教育学
兼任	講師	原北 祥悟 (31) <令和2年4月> 博士 (教育学)
		教育評価学
兼任	講師	世波 貴子 (59) <平成31年4月> 修士 (生物学)
		生物学
兼任	講師	後藤 純信 (59) <令和2年4月> 博士 (医学)
		救急医学
兼任	講師	森本 幸生 (60) <平成31年4月> 博士 (理学)
		生理学Ⅰ
兼任	講師	大津 泰子 (57) <平成31年4月> 修士 (教育学)
		保育
兼任	講師	安本 誠一 (54) <平成31年4月> 博士 (理学)
		物理学
兼任	講師	広瀬 美千代 (54) <令和2年4月> 短期大学士
		コミュニケーション技術Ⅱ (点 字)
兼任	講師	尾崎 弘明 (55) <平成31年4月> 博士 (医学)
		視能障害学Ⅰ
兼任	講師	新川 寿子 (53) <平成31年4月> 修士 (保健医療学)
		人間発達学
兼任	講師	今井 竜也 (46) <令和3年4月> 博士 (学術)
		社会学

兼任	講師	吉川 卓也 (62) <令和3年4月> 修士 (経済学)
		経済学
兼任	講師	河崎 栄二 (65) <令和2年4月> 商学士
		生理光学Ⅱ
兼任	講師	今井 克己 (63) <平成31年4月> 博士 (保健学)
		栄養学
兼任	講師	飯田 史也 (59) <平成31年4月> 博士 (教育学)
		教育学
兼任	講師	原北 祥悟 (31) <令和2年4月> 博士 (教育学)
		教育評価学
兼任	講師	世波 貴子 (59) <平成31年4月> 修士 (生物学)
		生物学
兼任	講師	後藤 純信 (59) <令和2年4月> 博士 (医学)
		救急医学
兼任	講師	森本 幸生 (60) <平成31年4月> 博士 (理学)
		生理学Ⅰ
兼任	講師	大津 泰子 (57) <平成31年4月> 修士 (教育学)
		保育
兼任	講師	安本 誠一 (54) <平成31年4月> 博士 (理学)
		物理学
兼任	講師	広瀬 美千代 (54) <令和2年4月> 短期大学士
		コミュニケーション技術Ⅱ (点 字)
兼任	講師	尾崎 弘明 (55) <平成31年4月> 博士 (医学)
		視能障害学Ⅰ
兼任	講師	新川 寿子 (53) <平成31年4月> 修士 (保健医療学)
		人間発達学
兼任	講師	今井 竜也 (46) <令和3年4月> 博士 (学術)
		社会学

兼任 講師	村木 里志 (49) <平成31年4月> 博士 (学術)	人間工学
兼任 講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士 (健康福祉学)	ケアマネジメント論
兼任 講師	小山 哲矢 (50) <令和3年4月> 専門学校卒	屈折矯正の実際
兼任 講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士 (経済学)	国際医療福祉論
兼任 講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士 (人文科学)	哲学
兼任 講師	光藤 崇子 (44) <令和3年4月> 博士 (人間環境学)	視覚と高次脳
兼任 講師	石川 智恵 (44) <令和2年4月> 専門学校卒	視能検査学 I
兼任 講師	杉原 浩郎 (43) <平成31年4月> 修士 (異文化コミュニケーション学)	アジア比較文化論
兼任 講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士 (医学)	リハビリテーション医学
兼任 講師	恒成 健 (43) <令和3年4月> 専門学校卒	視能障害評価学
兼任 講師	中村 理央 (40) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理光学 I
兼任 講師	筒井 健太 (42) <令和3年4月> 専門学校卒	弱視斜視論Ⅲ
兼任 講師	廣瀬 信之 (39) <平成31年4月> 博士 (文学)	視覚情報処理論 I 視覚と注意

兼任 講師	村木 里志 (49) <平成31年4月> 博士 (学術)	人間工学
兼任 講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士 (健康福祉学)	ケアマネジメント論
兼任 講師	小山 哲矢 (48) <令和3年4月> 専門学校卒	屈折矯正の実際
兼任 講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士 (経済学)	国際医療福祉論
兼任 講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士 (人文科学)	哲学
兼任 講師	光藤 崇子 (42) <令和3年4月> 博士 (人間環境学)	視覚と高次脳
兼任 講師	石川 智恵 (44) <令和2年4月> 専門学校卒	視能検査学 I
兼任 講師	福井 隼 (47) <平成31年4月> 修士 (学術)	アジア比較文化論
兼任 講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士 (医学)	リハビリテーション医学
兼任 講師	恒成 健 (41) <令和3年4月> 専門学校卒	視能障害評価学
兼任 講師	中村 理央 (40) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理光学 I
兼任 講師	筒井 健太 (40) <令和3年4月> 専門学校卒	弱視斜視論Ⅲ
兼任 講師	廣瀬 信之 (39) <平成31年4月> 博士 (文学)	視覚情報処理論 I 視覚と注意

		澤 真澄 (40) <令和2年4月> 修士 (保健学)
兼任 講師	村木 里志 (50) <平成31年4月> 博士 (学術)	人間工学
兼任 講師	大谷 久也 (49) <平成31年4月> 修士 (健康福祉学)	ケアマネジメント論
兼任 講師	小山 哲矢 (49) <令和3年4月> 専門学校卒	屈折矯正の実際
兼任 講師	伊藤 豪 (47) <平成31年4月> 修士 (経済学)	国際医療福祉論
兼任 講師	吉原 雅子 (47) <平成31年4月> 博士 (人文科学)	哲学
兼任 講師	光藤 崇子 (43) <令和3年4月> 博士 (人間環境学)	視覚と高次脳
兼任 講師	石川 智恵 (44) <令和2年4月> 専門学校卒	視能検査学 I
兼任 講師	山本秀也 (58) <令和2年4月> 博士 (哲学)	アジア比較文化論
兼任 講師	松瀬 博夫 (44) <平成31年4月> 博士 (医学)	リハビリテーション医学
兼任 講師	恒成 健 (42) <令和3年4月> 専門学校卒	視能障害評価学
兼任 講師	中村 理央 (41) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理光学 I
兼任 講師	筒井 健太 (41) <令和3年4月> 専門学校卒	弱視斜視論Ⅲ
兼任 講師	廣瀬 信之 (39) <平成31年4月> 博士 (文学)	視覚と注意

		澤 真澄 (41) <令和2年4月> 修士 (保健学)
兼任 講師	村木 里志 (51) <平成31年4月> 博士 (学術)	人間工学
兼任 講師	大谷 久也 (50) <平成31年4月> 修士 (健康福祉学)	ケアマネジメント論
兼任 講師	小山 哲矢 (50) <令和3年4月> 専門学校卒	屈折矯正の実際
兼任 講師	伊藤 豪 (48) <平成31年4月> 修士 (経済学)	国際医療福祉論
兼任 講師	石川 智恵 (45) <令和2年4月> 専門学校卒	視能検査学 I
兼任 講師	田村 俊介 (29) <令和3年4月> 博士 (学術)	視覚と高次脳
兼任 講師	山本秀也 (59) <令和2年4月> 博士 (哲学)	アジア比較文化論
兼任 講師	松瀬 博夫 (45) <平成31年4月> 博士 (医学)	リハビリテーション医学
兼任 講師	恒成 健 (43) <令和3年4月> 専門学校卒	視能障害評価学
兼任 講師	中村 理央 (42) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理光学 I
兼任 講師	筒井 健太 (42) <令和3年4月> 専門学校卒	弱視斜視論Ⅲ
兼任 講師	森 周司 (60) <令和3年4月> 博士 (心理学)	視覚と注意

		澤 真澄 (41) <令和2年4月> 修士 (保健学)
兼任 講師	村木 里志 (51) <平成31年4月> 博士 (学術)	人間工学
兼任 講師	大谷 久也 (50) <平成31年4月> 修士 (健康福祉学)	ケアマネジメント論
兼任 講師	小山 哲矢 (50) <令和3年4月> 専門学校卒	屈折矯正の実際
兼任 講師	伊藤 豪 (48) <平成31年4月> 修士 (経済学)	国際医療福祉論
兼任 講師	石川 智恵 (44) <令和3年4月> 博士 (人間環境学)	視覚と高次脳
兼任 講師	田村 俊介 (29) <令和3年4月> 博士 (学術)	視覚と高次脳
兼任 講師	山本秀也 (59) <令和2年4月> 博士 (哲学)	アジア比較文化論
兼任 講師	松瀬 博夫 (45) <平成31年4月> 博士 (医学)	リハビリテーション医学
兼任 講師	恒成 健 (43) <令和3年4月> 専門学校卒	視能障害評価学
兼任 講師	中村 理央 (42) <平成31年4月> 博士 (理学)	生理光学 I
兼任 講師	筒井 健太 (42) <令和3年4月> 専門学校卒	弱視斜視論Ⅲ
兼任 講師	森 周司 (60) <令和3年4月> 博士 (心理学)	視覚と注意

兼任	講師	妹尾 武治 (41) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	妹尾 武治 (39) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	妹尾 武治 (40) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	妹尾 武治 (41) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	妹尾 武治 (41) <令和3年4月> 博士(心理学)
		視覚とヴァーチャルリアリティ			視覚とヴァーチャルリアリティ			視覚とヴァーチャルリアリティ			視覚とヴァーチャルリアリティ			視覚とヴァーチャルリアリティ
兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (39) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (40) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (40) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)
		ボランティア論			ボランティア論			ボランティア論			ボランティア論			ボランティア論
兼任	講師	浦 智香子 (37) <令和2年4月> 専門学校卒	兼任	講師	浦 智香子 (36) <令和2年4月> 専門学校卒	兼任	講師	浦 智香子 (37) <令和2年4月> 専門学校卒						
		視能矯正学Ⅱ			視能矯正学Ⅱ			視能矯正学Ⅱ						
兼任	講師	富松 江梨佳 (38) <令和3年4月> 博士(芸術工学)	兼任	講師	富松 江梨佳 (36) <令和3年4月> 博士(芸術工学)	兼任	講師	富松 江梨佳 (38) <令和2年4月> 博士(芸術工学)	兼任	講師	富松 江梨佳 (39) <令和2年4月> 博士(芸術工学)	兼任	講師	富松 江梨佳 (39) <令和2年4月> 博士(芸術工学)
		視覚情報処理論Ⅱ			視覚情報処理論Ⅱ			視覚情報処理論Ⅰ 視覚情報処理論Ⅱ			視覚情報処理論Ⅰ 視覚情報処理論Ⅱ			視覚情報処理論Ⅰ 視覚情報処理論Ⅱ
兼任	講師	田中 亨 (36) <令和2年4月> 専門学校卒	兼任	講師	田中 亨 (35) <令和2年4月> 専門学校卒	兼任	講師	田中 亨 (36) <令和2年4月> 専門学校卒						
		視能検査学Ⅱ			視能検査学Ⅱ			視能検査学Ⅱ						
兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)									
		文学			文学									
						兼任	講師	安河内 敬太 (34) <令和2年4月> 修士(文学)	兼任	講師	安河内 敬太 (35) <令和2年4月> 修士(文学)	兼任	講師	安河内 敬太 (35) <令和2年4月> 修士(文学)
								文学			文学			文学
兼任	講師	中村 佑未 (33) <令和2年4月> 専門学校卒	兼任	講師	中村 佑未 (32) <令和2年4月> 専門学校卒									
		視能矯正学Ⅰ			視能矯正学Ⅰ									
						兼任	講師	後藤 克聡 (38) <令和2年4月> 博士(感覚矯正学)						
								視能矯正学Ⅰ 視能検査学Ⅱ						
兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (29) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (30) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (30) <平成31年4月> 修士(文学)
		倫理学			倫理学			倫理学			倫理学 哲学			倫理学 哲学
兼任	講師	須長 正治 (55) <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	須長 正治 (53) <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	須長 正治 (54) <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	須長 正治 (55) <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	須長 正治 (55) <令和3年4月> 博士(工学)
		視覚情報処理論Ⅲ			視覚情報処理論Ⅲ			視覚情報処理論Ⅲ			視覚情報処理論Ⅲ			視覚情報処理論Ⅲ
兼任	講師	裴 永珍 (37) <平成31年4月> 修士(芸術工学)												
		韓国語												
			兼任	講師	黄 慶旭 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	黄 慶旭 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	黄 慶旭 (46) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	黄 慶旭 (46) <平成31年4月> 修士(教育学)
					韓国語			韓国語			韓国語			韓国語
兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (58) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (58) <平成31年4月> 修士(体育学)
		健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の年齢**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

本務校の都合により杉原活郎講師（兼任）の担当が難しくなったため、福井譲講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
本人の都合により夏永珍講師（兼任）の担当が難しくなったため、黄慶旭講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和2年度】

・新規採用により令和元年9月サミアニファラマルズ助教就任。令和元年6月AC教員審査済み。
・本人の都合により黒岩俊郎（兼任）の担当が難しくなったため、工藤祥講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・新科目「教育評価学」の設置に伴い、原北祥悟講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
・本人の都合により馬原亜矢講師（兼任）の担当が難しくなったため、澤真澄講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・本務校の都合により福井譲講師（兼任）の担当が難しくなったため、山本秀也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・本人の都合により武藤ゆう講師（兼任）の担当が難しくなったため、安河内敬太講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・本人の都合により中村佑未講師（兼任）の担当が難しくなったため、後藤克聡講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和3年度】

・令和3年4月田村省吾講師就任。令和3年1月AC教員審査済み。
・本務校の都合により財津裕一教授（兼任）の担当が一部難しくなったため、「保健医療福祉制度論」を辻雅善講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
・志岐早苗助教（専任）の退職に伴い、「医学英語Ⅰ」「英語（応用）」をJenny Anne MacDonald講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
・志岐早苗助教（専任）の退職に伴い、「コミュニケーション概論」を田原直美講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
・本人の都合により今泉博国講師（兼任）の担当が難しくなったため、吉川卓也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・本人の都合により桑野博文講師（兼任）の担当が難しくなったため、今井竜也講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・本人の都合により高嶋美和講師（兼任）の担当が一部難しくなったため、「産科理学療法学」を漆川沙弥香講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・本人の都合により吉原雅子講師（兼任）の担当が難しくなったため、土持貞志講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・本人の都合により光藤崇子講師（兼任）の担当が難しくなったため、田村俊介講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
・本人の都合により廣瀬信之講師（兼任）の担当が難しくなったため、森周司講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

【令和4年度】

・令和4年3月、自己都合によりサミアニファラマルズ講師自己都合退職に伴い、「医学英語Ⅱ」「英語（基礎）」「英会話」をJenny Anne MacDonald講師（兼任）が担当する（教員審査省略）。
・令和4年4月、本居快助手採用。AC教員審査（R4.6）受審の上、審査の結果を経て助教（専任）予定。
・令和4年4月、藤田秀昭講師（兼任）採用。AC教員審査（R4.6）受審の上、ORT専任講師として採用予定。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
5	3	1	3	12	0	5	2	2	2	11	1
(3)	(2)	(1)	(2)	(8)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
5	2	2	2	11	1	5	2	3	3	13	0
[0]	[Δ1]	[1]	[0]	[Δ1]	[1]	[0]	[0]	[2]	[0]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	5 名	5 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{12} = \boxed{91.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{5}{11} = \boxed{45.45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
		以下、余白								
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	— 科目		必修	—	必修	—	必修	—
		選択	— 科目		選択	—	選択	—	選択	—
		自由	— 科目		自由	—	自由	—	自由	—
		計	— 科目		計	—	計	—	計	—

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	助教	志岐 早苗	R3.3	選択	コミュニケーション概論	②	一身上の都合により辞任 (3)						
				必修	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)	①、② (4)							
				必修	医学英語Ⅰ	①、② (4)							
				必修	医学英語Ⅱ	①、② (4)							
				選択	英語 (基礎)	①、② (4)							
				選択	英語 (応用)	②							
				選択	英会話	①、② (4)							
2	准教授	宇野 宏一	R4.3	必修	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)	②	一身上の都合により辞任 (4)						
				必修	卒業研究Ⅰ	②							
				必修	卒業研究Ⅱ	②							
				必修	視能障害学Ⅲ	②							
				必修	視能障害学Ⅳ	②							
3	助教	サミファソニー ファーマルス	R4.3	必修	医学英語Ⅰ	②	一身上の都合により辞任 (4)						
				必修	医学英語Ⅱ	②							
				選択	英語 (基礎)	②							
				選択	英語 (応用)	②							
				選択	英会話	②							
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
3	人	必修	10	科目	必修	0	科目	必修	10	科目	必修	0	科目
		選択	7	科目	選択	0	科目	選択	7	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	0		計	17	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3	人	必修	10 科目	必修	0 科目	必修	10 科目	必修	0 科目
		選択	7 科目	選択	0 科目	選択	7 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	17 科目	計	0 科目	計	17 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{12} = \boxed{25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
		以下、余白							
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	— 科目	必修	— 科目	必修	— 科目	必修	— 科目
		選択	— 科目	選択	— 科目	選択	— 科目	選択	— 科目
		自由	— 科目	自由	— 科目	自由	— 科目	自由	— 科目
		計	— 科目	計	— 科目	計	— 科目	計	— 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>昨年度辞任した志岐助教が担当していた科目は、英語関連科目は専任のネイティブスピーカー (専任) と非常勤のネイティブスピーカーでカバーしている。また、選択科目は非常勤講師に依頼している。なお必修の外国語は2クラス編成で授業を行っており、前述の専任及び兼任のネイティブスピーカーが授業を行っている。このことにより、当初計画から授業科目を減らすことなく運営しているため教育研究上の機能は十分維持できており、学生への履修等の影響はないと考える。学生に対する必要な連絡事項等は、年次初めのオリエンテーションにおいて学科毎に周知した。なお、語学の教員が退職する一方で視能訓練士の有資格者である専任教員を採用し、本学の他の学科に比べ人的にやや手薄だった視能訓練学科のプロパーの厚みを増したが、語学の教員については今後公募する予定である (3)</p> <p>昨年度末辞任したマフアンニ ファラリスが担当していた科目は、英語関連科目は非常勤のネイティブスピーカーでカバーしている。なお必修の外国語は2クラス編成で授業を行っており、前述の専任及び兼任のネイティブスピーカーが授業を行っている。このことにより、当初計画から授業科目を減らすことなく運営しているため教育研究上の機能は十分維持できており、学生への履修等の影響はないと考える。学生に対する必要な連絡事項等は、年次初めのオリエンテーションにおいて学科毎に周知した。なお、語学の教員が退職する一方で視能訓練士の有資格者である専任教員を採用し、本学の他の学科に比べ人的にやや手薄だった視能訓練学科のプロパーの厚みを増したが、一方で語学の専任教員が中国語1名と手薄になってきた。英語の専任教員については今後公募する予定である (4)</p> <p>眼科医でもある宇野准教授が退職したことへの対応は、グループ内の同じく眼科医を確保し、6月のAC教員審査に間に合うよう現在書類を作成している。宇野准教授が担当していた科目を全て依頼することになる。また、前年度に引き続き英語専任のマフアンニ ファラリス助教が退職したが、急な退職でもあり専任の補充が間に合わなかったため、今年度は非常勤のネイティブスピーカー2名で対応する。なお、英語担当のネイティブスピーカー (専任) を公募し、今後に備えることとなる。なお、前年に引き続き視能訓練士の有資格者である専任教員を採用 (現在は助手) し、6月のAC教員審査にかけられるよう現在書類を作成している。学生に対してはオリエンテーション時に周知することで、特に混乱は来していない。(4)</p>
--

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 設置の趣旨・目的を十分に踏まえ、設置計画を確実に履行するための運営組織を整えて教育研究活動を開始した。4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うため、学長は、教授会を始め諸会議体を通じて教育目標、カリキュラムの体系等について合意形成を図る。	履行中
認 可 時 (平成30年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 高い教育水準を達成するため、優れた教育研究能力を有する教員を配置したことから、開設当初は1名の教員が定年規程の退職年齢を超えている。また、完成年度には5名の教員が退職年齢を超えることとなる。これらの教員は、定年延長に関する内規の適用を受けるものであるが、完成年度後に定年を迎える教員も含め、教育研究の水準を維持しつつ教員年齢のバランスに配慮し、中長期的視野に立った人事計画を策定し教員組織を整備することとしている。	履行中
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	該当なし		

設置計画履行状況 調査時 (令和4年)	該当なし		
---------------------------	------	--	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見直しなど
<p>① 修了要件単位数 124単位 必修科目116単位、選択科目8単位</p> <p>② 科目名称及び必修・選択区分の変更</p> <p>③ 新規科目の追加</p> <p>④ 入学者選抜の概要 以下の入試区分を実施。 ※()内：各学科募集人員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校推薦入試[公募制・指定校制](12名) ・一般入試[前期日程・後期日程](23名) ・大学入試センター試験利用入試(5名) ・帰国生徒特別選抜入試(若干名) ・留学生特別選抜入試(若干名) ・社会人特別選抜入試(若干名) 	<p>① 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、一部選択科目を必修科目へ変更。(2) 126単位 必修科目118単位、選択科目8単位</p> <p>② 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、「救急医学」を「選択」から「必修」に変更。授業科目の名称を「薬理学」から「基礎薬理学」に、また「選択」から「必修」に変更。(2)</p> <p>③ 「理学療法士作業療法士養成施設指定規則」改正に伴い、総合教育科目に「教育評価学」を追加。(2)</p> <p>④ 入学希望者の受験機会を増やすため、令和2年度入学者選抜よりA0入試（選抜方法：書類審査・小論文・個別面接）を追加。これに伴い、募集人員も一部変更。 また、文部科学省による大学入学者選抜実施要項の見直し方針に基づき、令和3年度入学者選抜より入試区分名を以下の通り変更。(2)</p> <p>※()内：各学科募集人員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校推薦入試→学校推薦型選抜[公募制・指定校制](12名) ・一般入試→一般選抜[前期日程・後期日程](20名) ・大学入試センター試験利用入試→大学入学共通テスト利用選抜(5名) ・帰国生徒特別選抜入試→帰国生徒特別選抜(若干名) ・留学生特別選抜入試→留学生特別選抜(若干名) ・社会人特別選抜入試→社会人特別選抜(若干名) ・A0入試→総合型選抜(3名)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>福岡国際医療福祉大学FD委員会を設置している。 SDについてもこの委員会での審議に基づき、取組みを展開することとしている。 FD委員会は教務委員会と連携し、教育の質の向上を目指すものである。 令和3年度からは、より効果を高めることを目的とし、FD・SD推進委員会と組織を改編した。(4)</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和元年度はFD委員会を計4回（10月・11月・12月・1月）開催した。 令和2年度はFD委員会を計9回（5月・6月・7月・9月・10月・12月・1月・2月・3月）開催した。各学科から1名ずつ選出された委員の参加状況は、毎回全員参加であった。 令和3年度はFD・SD推進委員会を計10回（5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月）開催した。(4)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学のグッドティーチング賞の要項整備と実施について ・本学のFD・SD研修会について (4) ・本年度のFD及びSD活動の基本方針について ・授業評価アンケートについて ・授業方法についての研究会について

② 実施状況

a 実施内容

オンラインを含め、年に4回のFD研修（全教員の参加を義務付ける。）開催のほか、テーマを設定した上で全教職員による研修会を開催した。

- ・第1回 第1回教員研修会「人権（差別）に関する研修」（講師：国際医療福祉大学総合教育センター 坂本真史 准教授・オンライン）
- ・第2回 第2回教員研修会「学生の特性を踏まえた効果的な実習指導に関する研修」（講師：作業療法学科 松田隆治 准教授、理学療法学科 池田拓郎 講師、視能訓練学科 松藤佳名子 准教授、言語聴覚専攻科 吉永明史 助教、看護学科 仙波洋子 准教授・対面、オンラインハイブリッド方式）
- ・第3回 第3回教員研修会「オープンな教育リソースについて」（講師：福岡国際医療福祉大学 作業療法学科 松田隆治 准教授、同 理学療法学科 山之口稔隆 講師）
- ・第4回 第4回教員研修会「グッドティーチング賞表彰式および報告会」

b 実施方法

- ・FD研修会を開催し、教育内容及び教育方法の向上の研修を行う。
- ・教務委員会で適正な成績評価基準の在り方等を検討、実施し、FD委員会で検証する。
- ・学外で開催されるFD研修会に参加した教員の知見を教授会、教務委員会等で報告し情報共有を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【平成30年度（設置認可前）】

平成30年8月15日・16日（設置認可前）に就任予定の教職員を集め、以下の内容で合宿研修を実施した。

- ・福岡国際医療福祉大学の設置構想について
- ・各学科の教育内容について
- ・リハビリテーションの現況について
- ・コンプライアンス（セクハラ、パワハラ、アカハラ等）について

【令和元年度（開学初年度）】

- ・後期試験の実施にあたり国家試験形式での出題の留意点や、試験作成のポイントに関する説明会を実施した。（参加状況：26名/28名 出席率：92.8%）
- ・ハラスメント防止委員会による「ハラスメント防止委員会」を開催した。（参加状況：22名/28名 出席率：78.5%）

【令和2年度（開学2年目）】

- ・第1回（令和2年7月22日） 新入生入学直後のUPI検査の結果を基に、新入生のメンタルヘルス状況について報告があり、また、精神的に問題を抱えている学生へのケアやフォローについて説明会を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）
- ・第2回（令和2年9月23日） 20年以上にわたる評価の手法や方法を評価方法を紹介し、それぞれの有効性や活用方法について講演を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）
- ・第3回（令和2年12月23日） スタンフォード大学で臨床・教育に従事していた氏の実体験から、予習中心のアクティブラーニングの実践と重要性、効果について講演を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%、ZOOM1名、録画視聴10名含む）
- ・第4回（令和3年3月24日） グッドティーチング賞選考発表と表彰式、および選考された3名の教員によるミニ講義を実施した。（参加状況：43名/44名、出席率97.8%）

【令和3年度（開学3年目）】

- ・第1回（令和3年8月24日） 薬剤師であり弁護士である国際医療福祉大学坂本真史准教授より、人権課題について、日本国憲法やイギリスの人権に関する歴史的経緯などを踏まえ講演があった。（参加状況：70名/73名、出席率95.9%）
- ・第2回（令和3年9月14日） 理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科、看護学科、言語聴覚専攻科からそれぞれ1名ずつの専任教員より、各学科固有の事情と実習の方法に関連し、学生の特性を踏まえた効果的な実習指導に関する報告と質疑が行われた。（参加状況：71名/73名、出席率97.3%）
- ・第3回（令和4年2月17日） OER（オープン教育資源）の具体例の提示や具体的な教育や研究への活用例について、2人の演者から具体的な例や活用する上で有効なツールの紹介などがあった。（参加状況：69名/73名、出席率94.5%）
- ・第4回（令和4年3月23日） グッドティーチング賞選考発表と表彰式、および選考された3名の教員によるミニ講義を実施した。（参加状況：51名/73名、執筆時点の出席率69.9%、当日欠席者についてはGoogle Classroomによる聴取集計中）

以上（4）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修を通じて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期の終盤にすべての授業科目で学生による評価アンケートを実施する。
アンケートは事務部学務課において集計し、学長へ報告する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

事務部学務課において集計したアンケート結果は、FD委員会で分析した上、各教員へ返却する。
学生には、結果全体の報告書を学生ポータルサイトに掲載する。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>本学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健全な人も、互いを認め合っ て暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すとともに、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深 い教養および総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を養成し、 地域医療はもとより国際社会にも貢献し得る有能な人材を養成することを目的に設置された。</p> <p>開学以降、医療者としての素養を育むための質の高い授業が行われており、総合教育科目の「医療とICT」「社会保 障制度論」「医学英語Ⅰ」などにおいて、科学的・論理的思考力を身に付け、国際化に対応できる視点を養う学修をして いる。専門基礎科目の「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「臨床医学概論」「リハビリテーション概論」などにおいて保健医療福 祉とリハビリテーションの理念について学修し、専門科目の「理学療法概論」「バイオメカニクス」などにおいて、基礎 理学療法学を学修している。なお、後期には、建学の精神に沿う「生命倫理」が開講される。</p> <p>設置の趣旨・目的を達成するための、幅広い教養、豊かな人間性、保健医療に関する基礎知識の獲得ができていくもの と捉えている。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期 ・設置初年度（2019年度）及び翌年度（2020年度）の2年間の教育研究活動を総括し、2021年6月下旬公表予定。</p> <p>b 公表方法 ・大学ホームページ上に公開予定</p> <p>③ 認証評価を受ける計画 ・完成年度（2022年度）後、適切な時期に受審の予定。</p>
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を
含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書につ
いて記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ <input checked="" type="radio"/> 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>
--

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。